

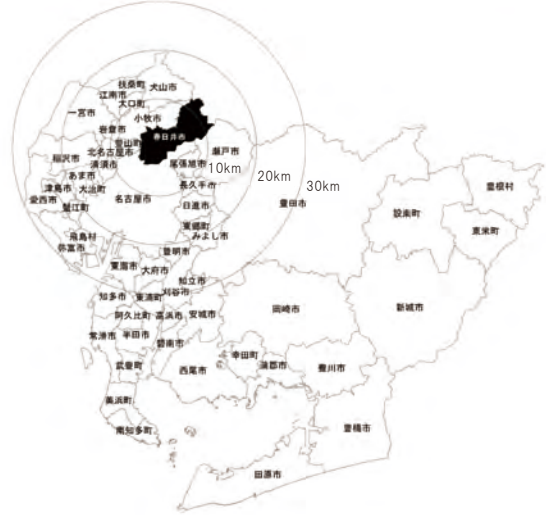
第1章 現況と課題

1 市の特性

(1) 位置

本市は、名古屋都市圏の北東部にあり、市域は東西に約15.7km、南北に約13.7kmで、その面積は92.78km²です。愛知県では、名古屋市、小牧市、犬山市、瀬戸市、豊山町の4市1町と、岐阜県では多治見市と接しています。

また、東名高速道路、中央自動車道、名古屋第二環状自動車道、一般国道19号や155号などの幹線道路網やJR中央本線、名鉄小牧線、TKJ（東海交通事業）城北線、愛知環状鉄道の鉄道網を有し、県営名古屋空港に隣接するなど利便性の高い広域交通網に恵まれています。



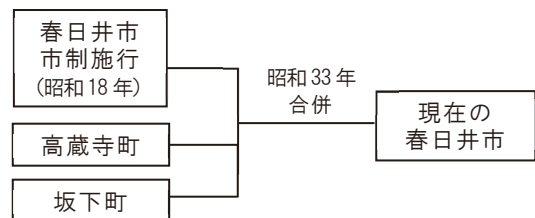
(2) 沿革

市制の施行は、昭和18年（1943年）6月1日で、太平洋戦争のさなかに、勝川町、鳥居松村、篠木村、鷹来村の4町村が合併し、鳥居松工しょう、鷹来工しょうを擁する軍需産業都市として誕生しました。しかし、終戦により、農業の奨励や工場の誘致などに努力し、昭和25年（1950年）、王子製紙春日井工場の誘致を機に、内陸工業都市として歩み始めました。

昭和33年（1958年）1月には、隣接する高蔵寺町と坂下町を合併し、人口7万人余りの都市となりました。昭和30年代後半に入り、土地区画整理事業の推進、高蔵寺ニュータウンの建設が始まり、この頃から、住宅都市としての性格が強まってきました。このため良好な住環境の形成に重点をおいたまちづくりを進め、昭和49年（1974年）には人口20万人、平成17年（2005年）には人口30万人を突破し、平成31年（2019年）4月時点では人口31万人を擁する名古屋圏を代表する住宅都市として発展しています。



■ 春日井都市計画区域変遷



2

都市の現況

都市の現況は、都市計画マスタープランの策定方針で示した次の5つの視点で整理しました。

視点1：人口減少・少子高齢化への対応

- (1) 人口・世帯数の動向
- (2) 土地利用・建物利用の動向
- (3) 市内の移動実態
- (4) 公共交通の人口カバー状況

視点2：産業の活性化

- (5) 周辺市町との移動実態
- (6) 産業構造
- (7) 都市基盤（道路）の状況

視点3：子育て世代が魅力的と感じる都市づくり

- (8) 公共交通の利用状況
- (9) 都市基盤（公園緑地）の状況
- (10) 子育て支援施設の分布状況
- (11) 医療施設の分布状況

視点4：安全・安心な市街地の形成

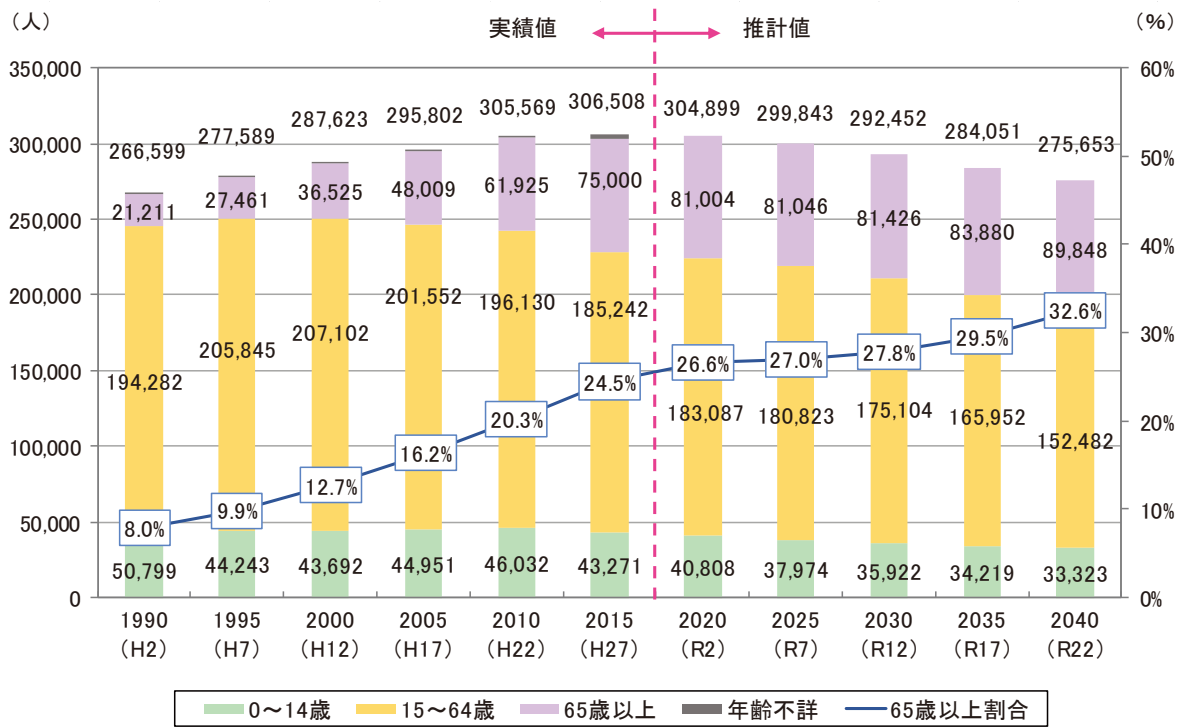
- (12) 災害危険性の状況

視点5：既存施設の管理・更新への対応

- (13) 公共施設の現況

1) 人口の推移

人口は、国勢調査では平成27年(2015年)時点で306,508人、住民基本台帳では平成31年(2019年)4月時点で311,326人となっています。今後は人口が減少するとともに、高齢化が進行すると予測されています。

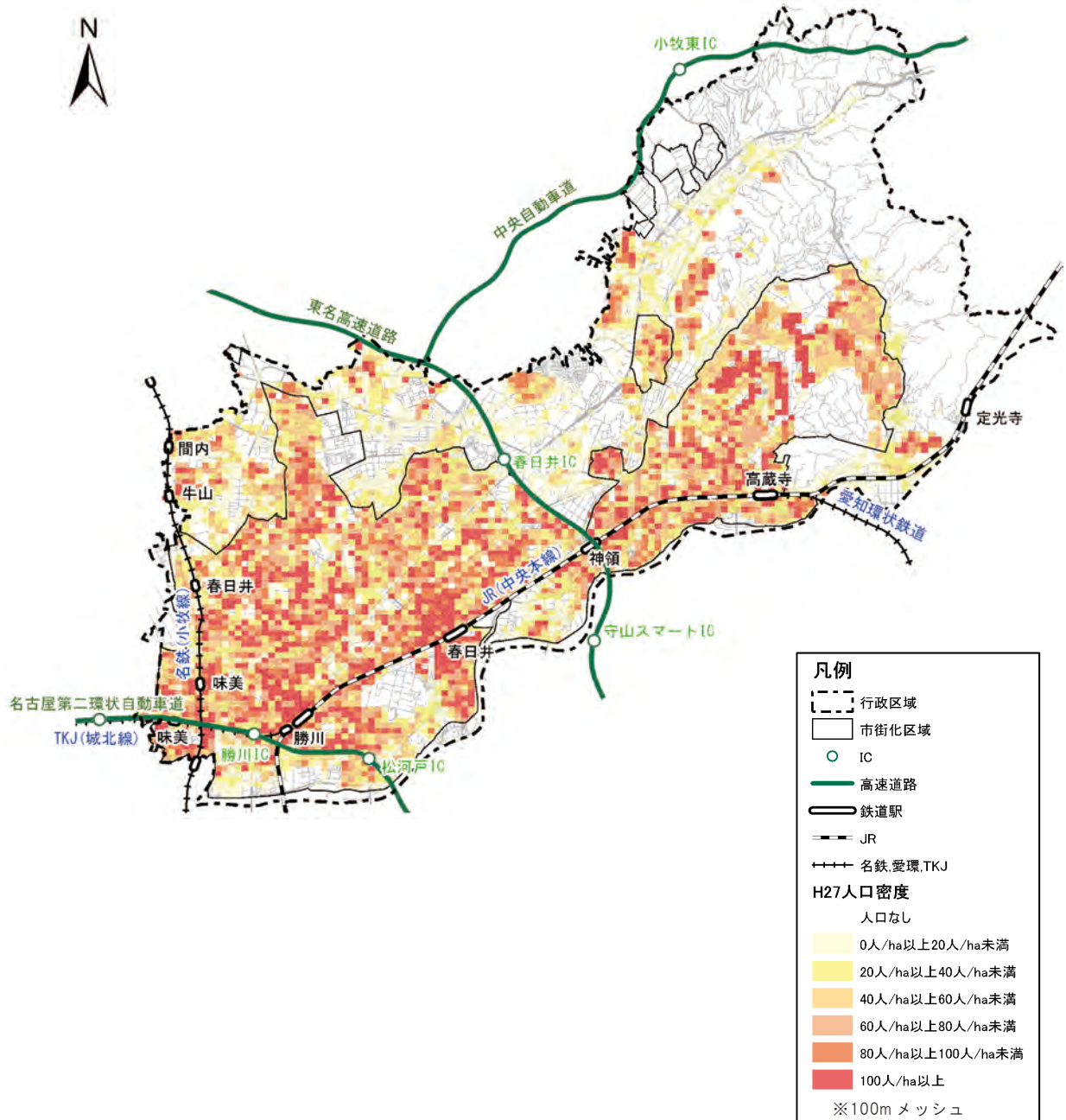


資料：国勢調査（H2～H27）、国立社会保障・人口問題研究所（R2～R22）

■人口の推移

2) 人口密度の状況

人口密度は、鉄道駅周辺や市街化区域内の土地区画整理事業施行済みの地域が高くなっています。

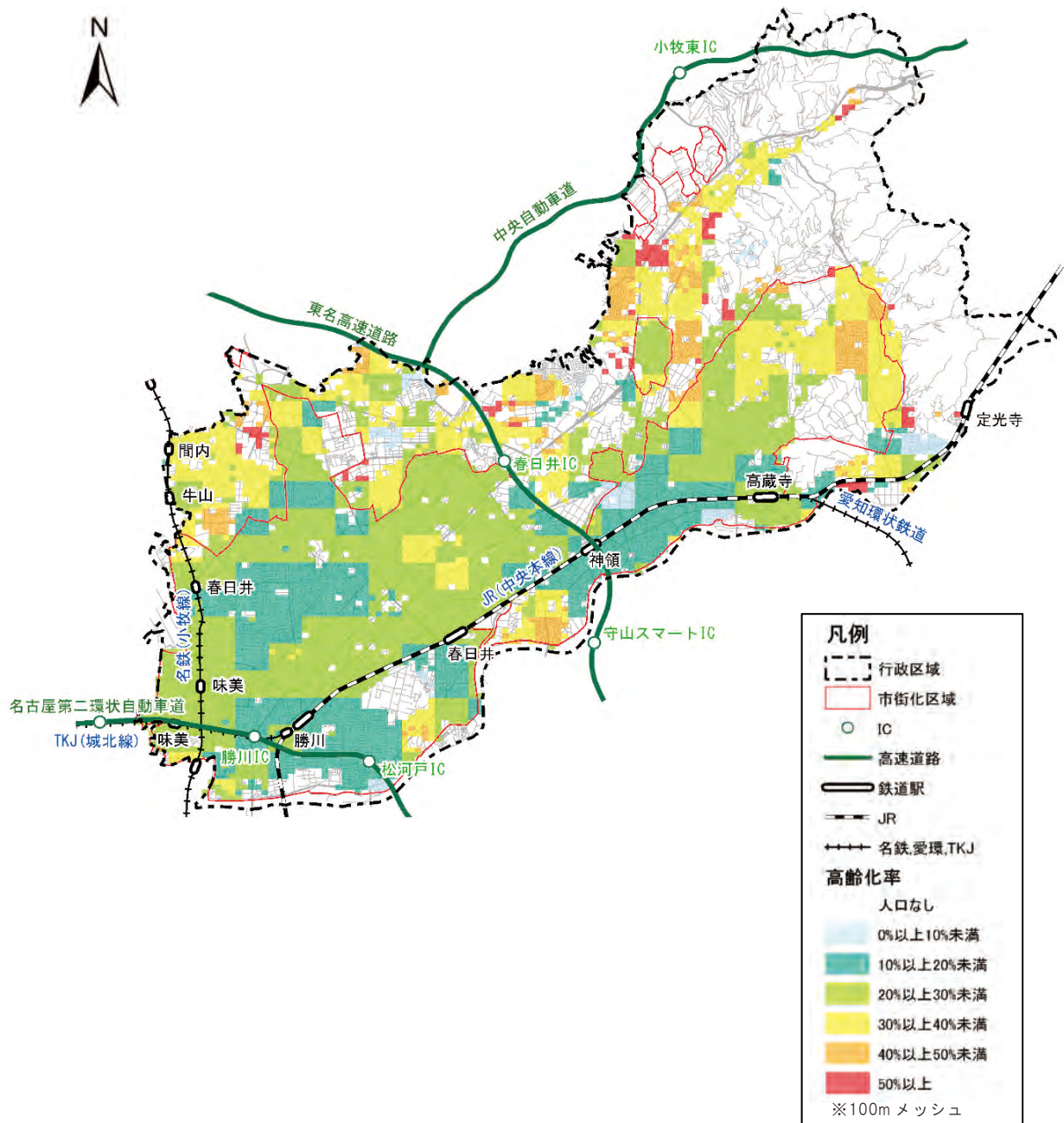


資料：国勢調査（H27）

■人口密度の状況

3) 高齢化の状況

高齢化の状況は、本市の高齢化率の平均が約 25% である中、市街化区域内では高蔵寺ニュータウンなどで、また、市街化調整区域では全般的に高齢化率が高くなっています。

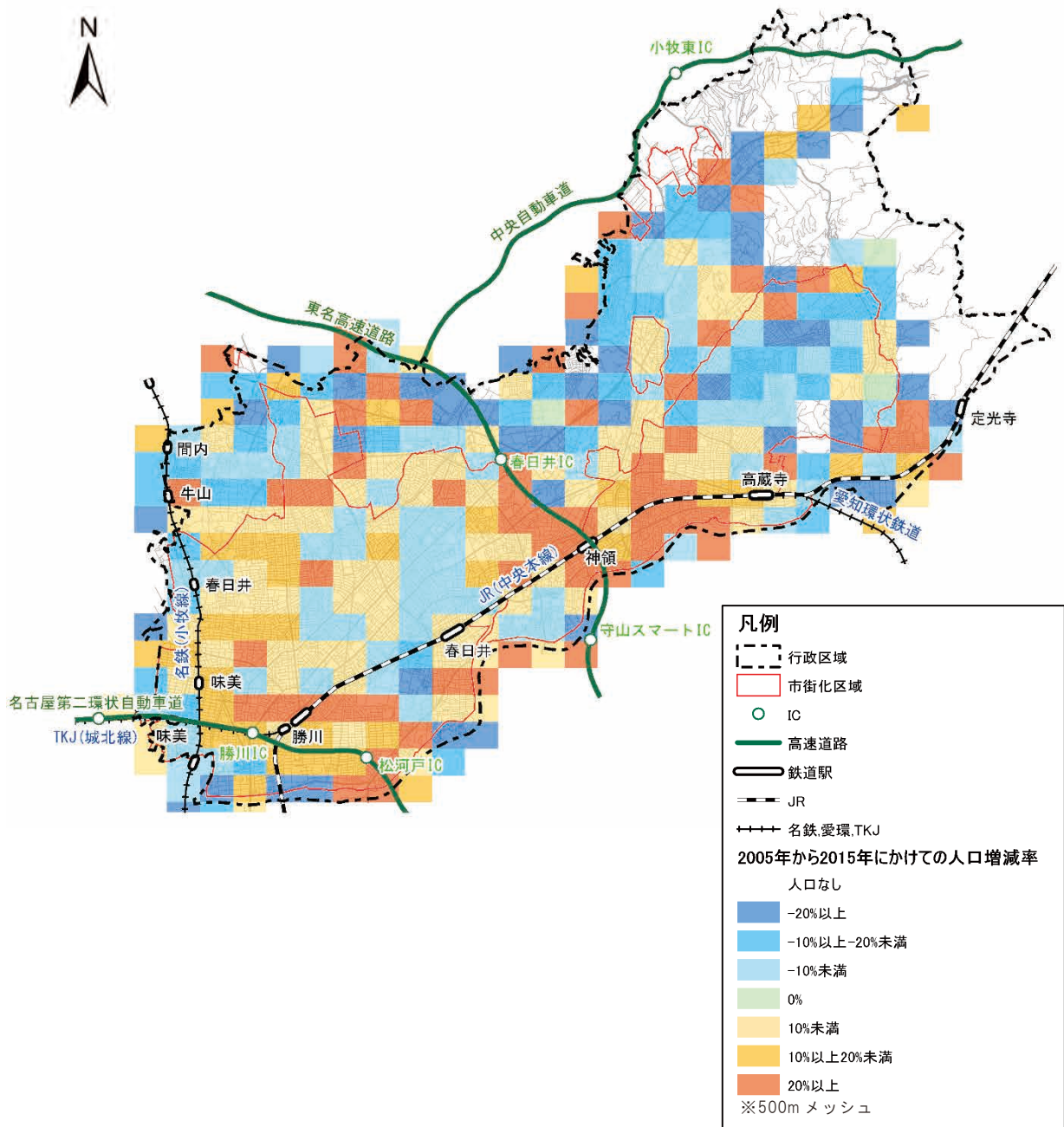


資料：国勢調査（H27）

■ 高齢化の状況

4) 人口増減の状況

人口増減の状況は、市街化区域内ではJR勝川駅周辺、JR神領駅周辺からJR高蔵寺駅周辺にかけて増加している地域が多くみられます。一方、高蔵寺ニュータウンの一部や市街化調整区域では、減少している地域が多くなっています。

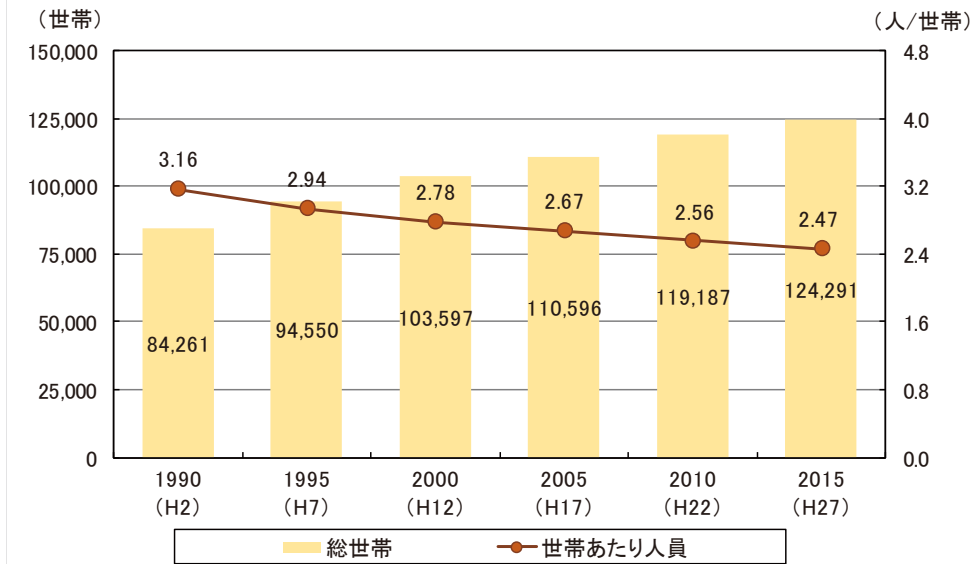


資料：国勢調査（H17、H27）

■ 人口増減の状況

5) 世帯数の推移

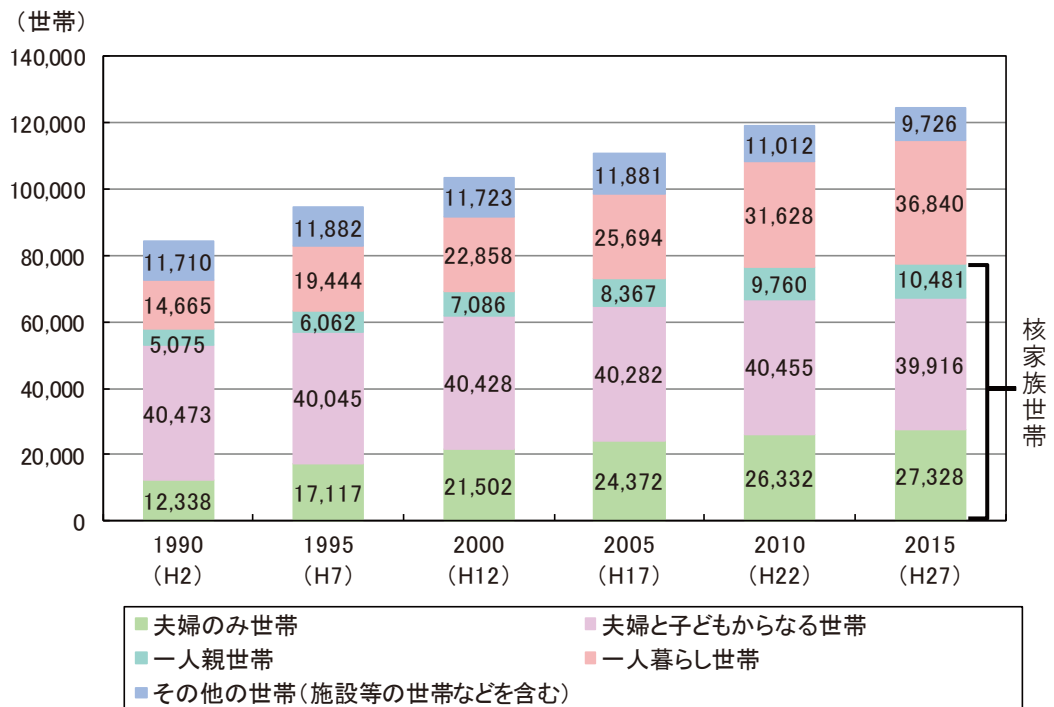
世帯数は、これまで増加傾向にあります。その一方で、世帯あたり人員は平成2年(1990年)の3.16人/世帯から平成27年(2015年)の2.47人/世帯に減少しています。



資料：国勢調査 (H2～H27)

■ 世帯数の推移と世帯あたり人員の推移

世帯の状況は、核家族世帯と1人暮らし世帯が増加傾向にあります。



資料：国勢調査 (H2～H27)

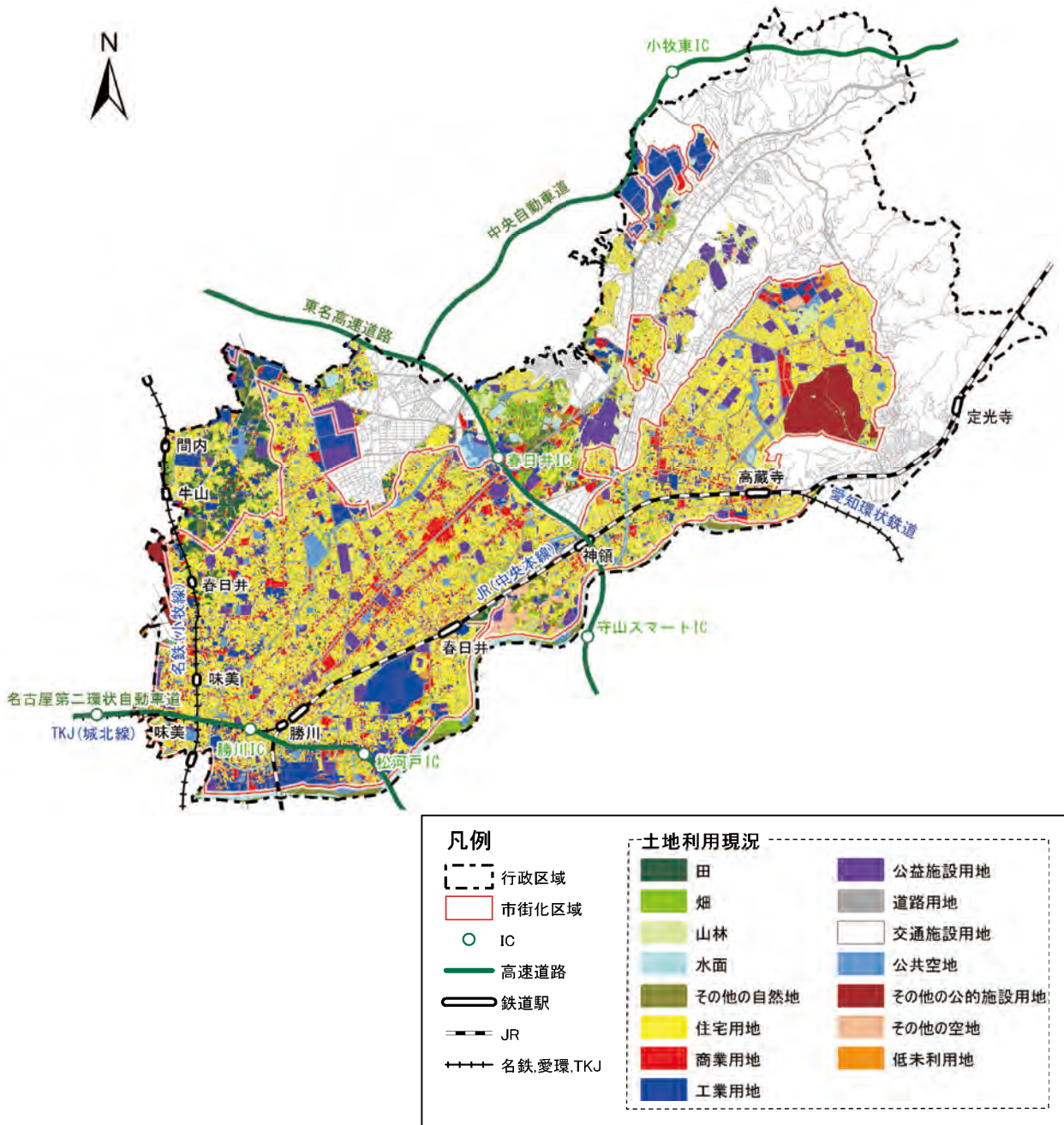
■ 世帯の家族類型別世帯数の推移

(2) 土地利用・建物利用の動向

■視点1：人口減少・少子高齢化への対応

1) 土地利用の状況

土地利用の状況は、住宅用地が最も多く、幹線道路沿道に商業用地が多く分布しています。市街化区域内の農地は、土地区画整理事業施行済みの地域も含め、名鉄春日井駅周辺及びJR春日井駅とJR神領駅間のJR中央本線南側などで分布しています。

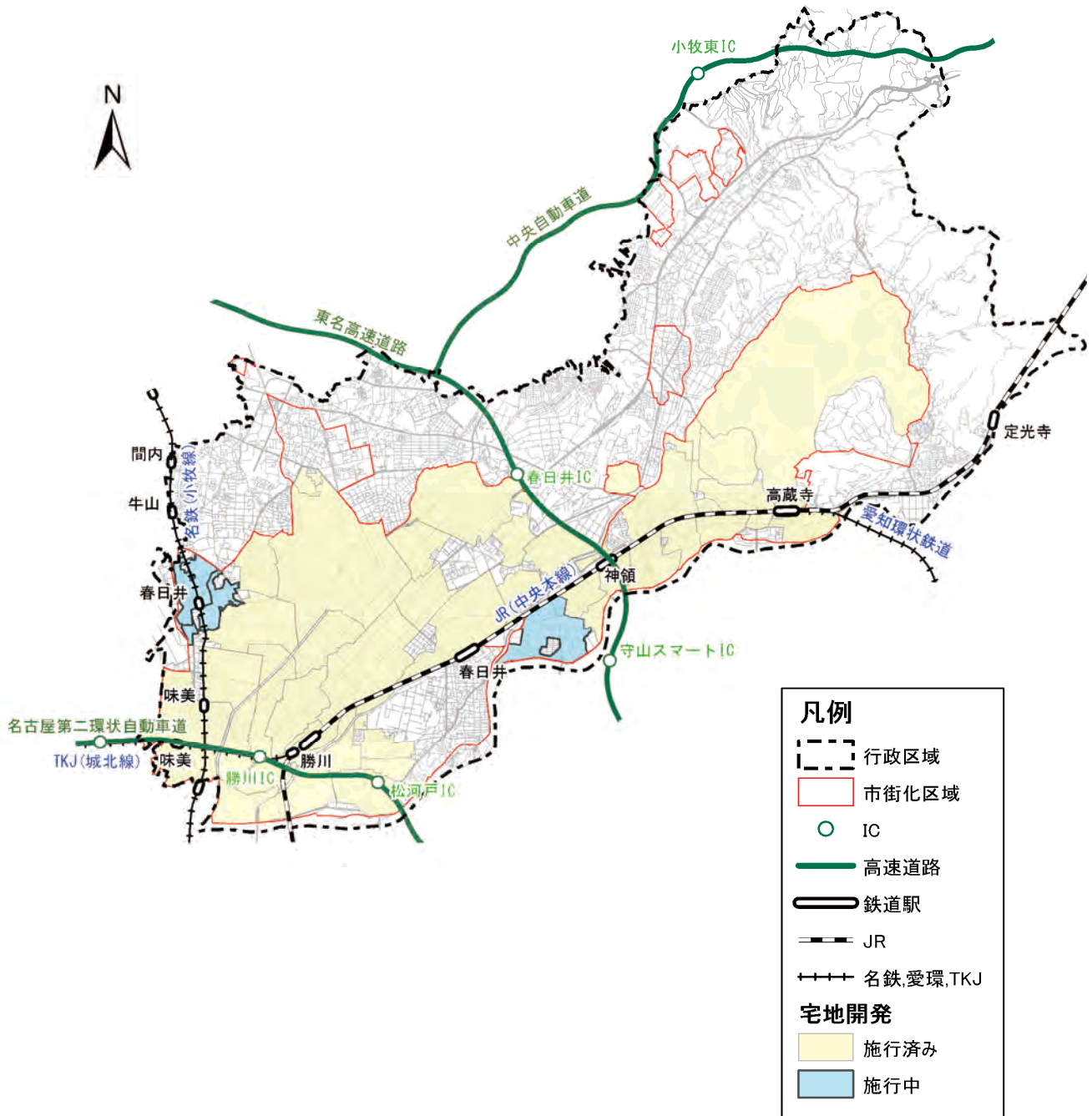


資料：都市計画基礎調査（H30）

■土地利用の状況

2) 土地区画整理事業の状況

土地区画整理事業の状況は、現在3地区（178.9ha）が施行中であり、施行中の土地区画整理事業を含めると、市街化区域の77%が土地区画整理事業により整備されています。

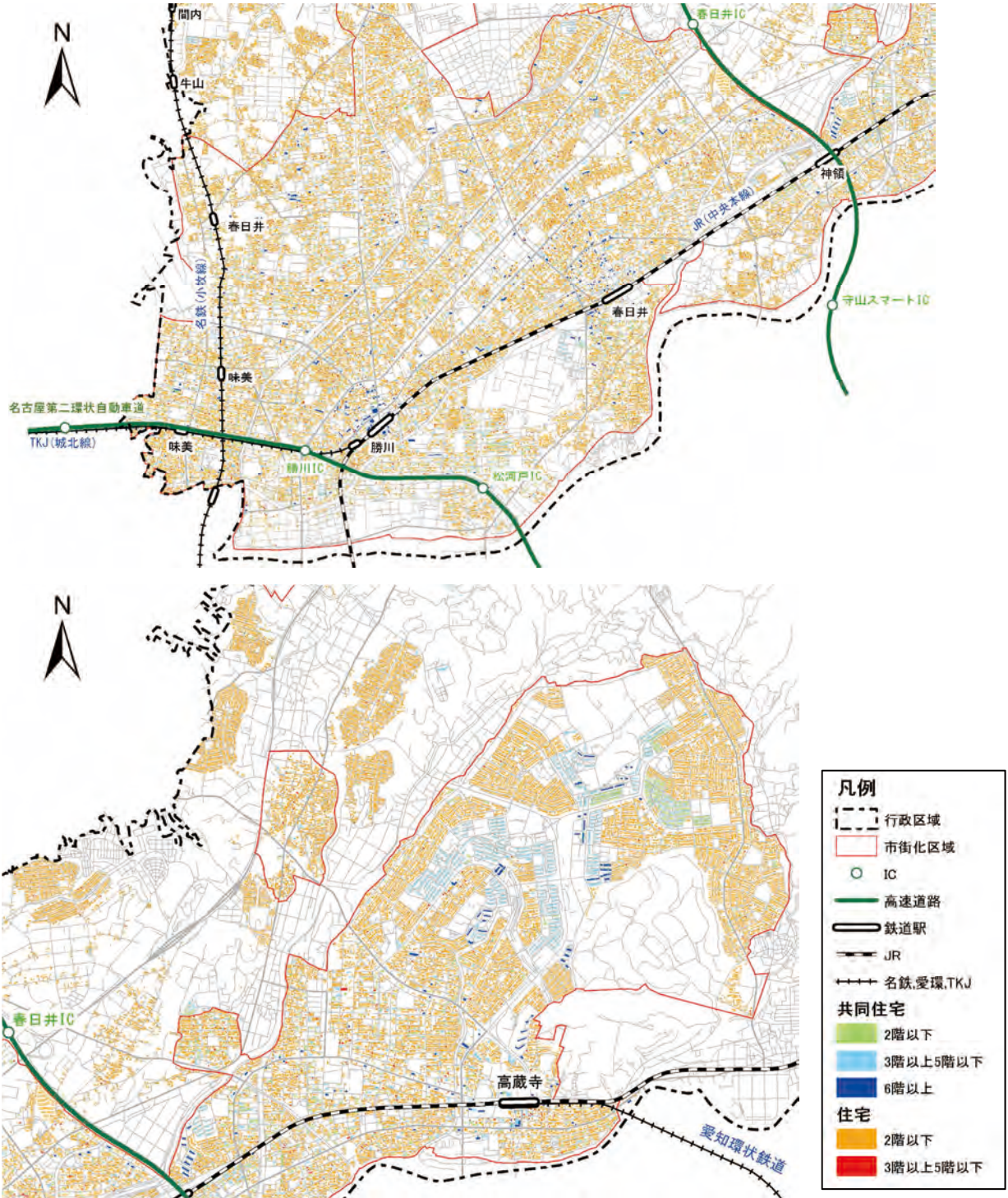


資料：春日井市資料（H30）

■土地区画整理事業の状況

3) 住宅（種別と階層）の分布状況

住宅の分布状況は、JR春日井駅やJR勝川駅周辺のほか、高蔵寺ニュータウンの一部の地区において共同住宅の分布が多くなっています。

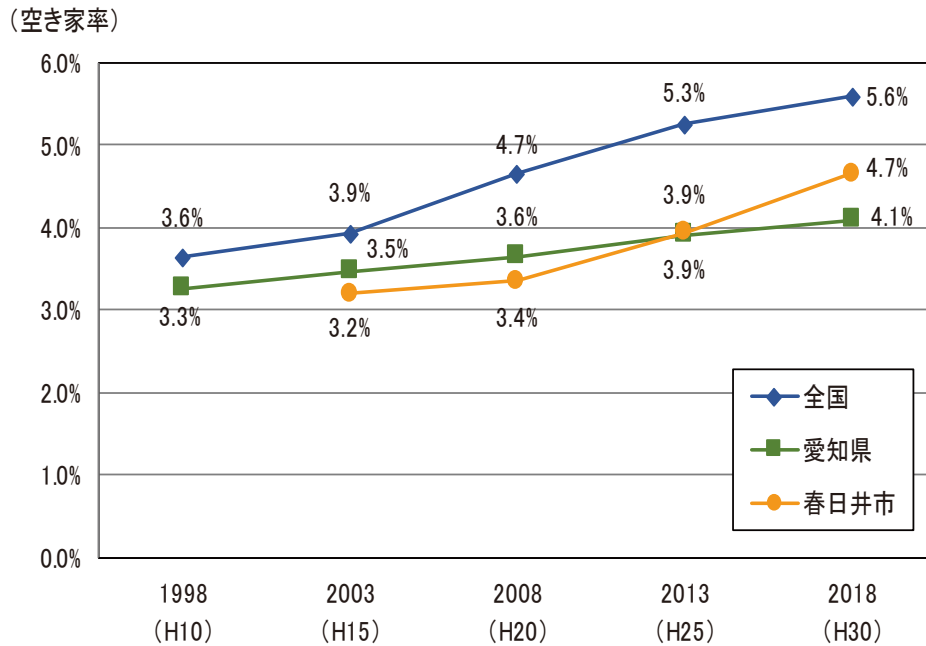


資料：都市計画基礎調査（H29）

■住宅（種別と階層）の分布状況

4) 空き家率の推移

空き家率は、平成 10 年（1998 年）以降年々上昇しており、平成 30 年（2018 年）には、全国で 5.6%、愛知県で 4.1%、春日井市で 4.7%となっています。本市の空き家率は、全国よりも低くなっているものの、平成 20 年（2008 年）から空き家の増加が顕著であり、平成 25 年（2013 年）以降、愛知県よりも高くなっています。



資料：住宅・土地統計調査（H10～H30）

※本項での空き家率は住宅・土地統計調査結果における住宅総数に占めるその他空き家の割合であり、別荘、賃貸用住宅、売却用住宅以外で人が住んでいない住宅（空き家の判断が困難な住宅を含む）を対象としています。

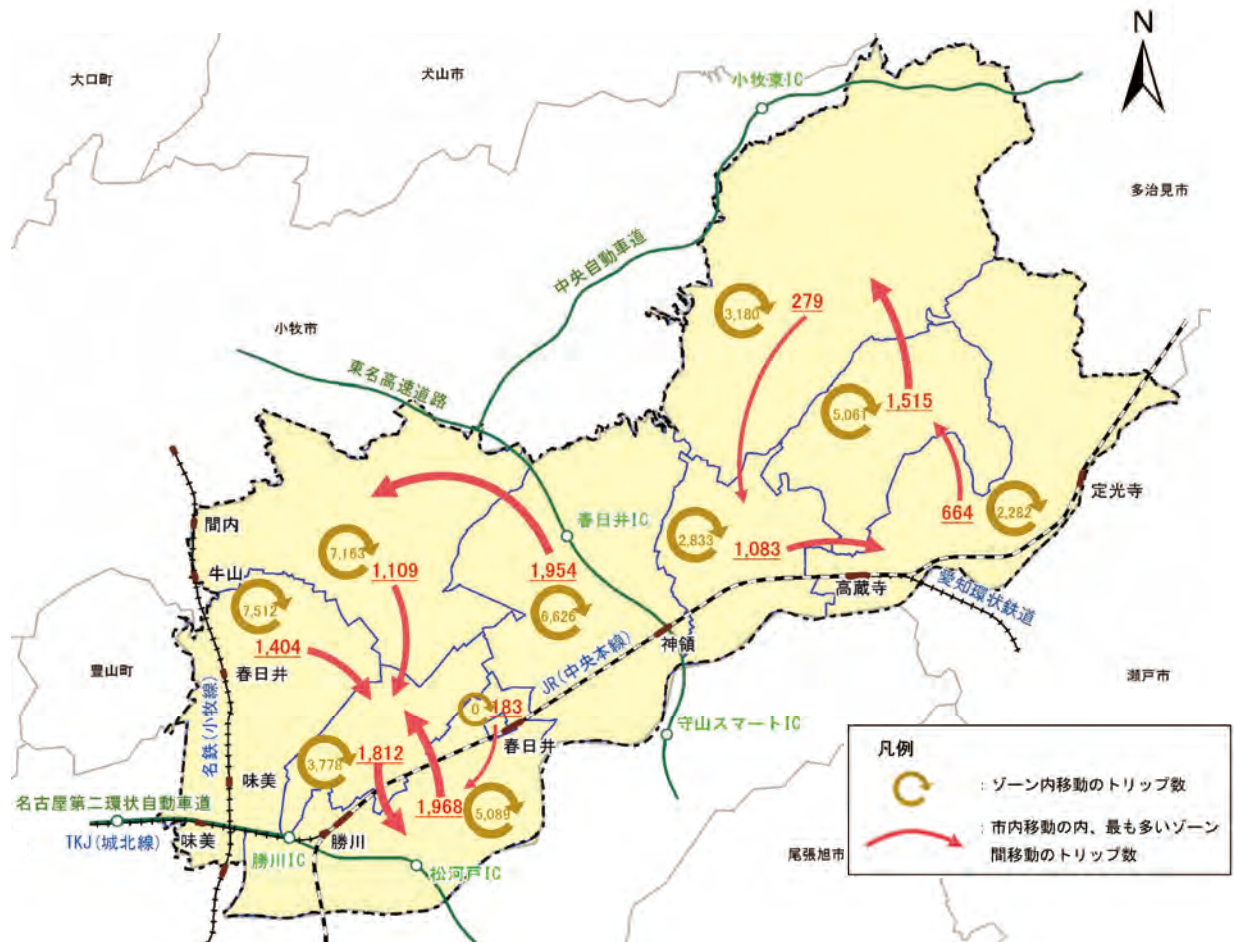
■ 空き家率の推移

(3) 市内の移動実態

■視点1：人口減少・少子高齢化への対応

1) 「通勤・通学」目的の移動実態

「通勤・通学」目的の移動実態は、JR神領駅周辺を境として市内の東部と西部で分かれており、それぞれの内部での移動が多くなっています。

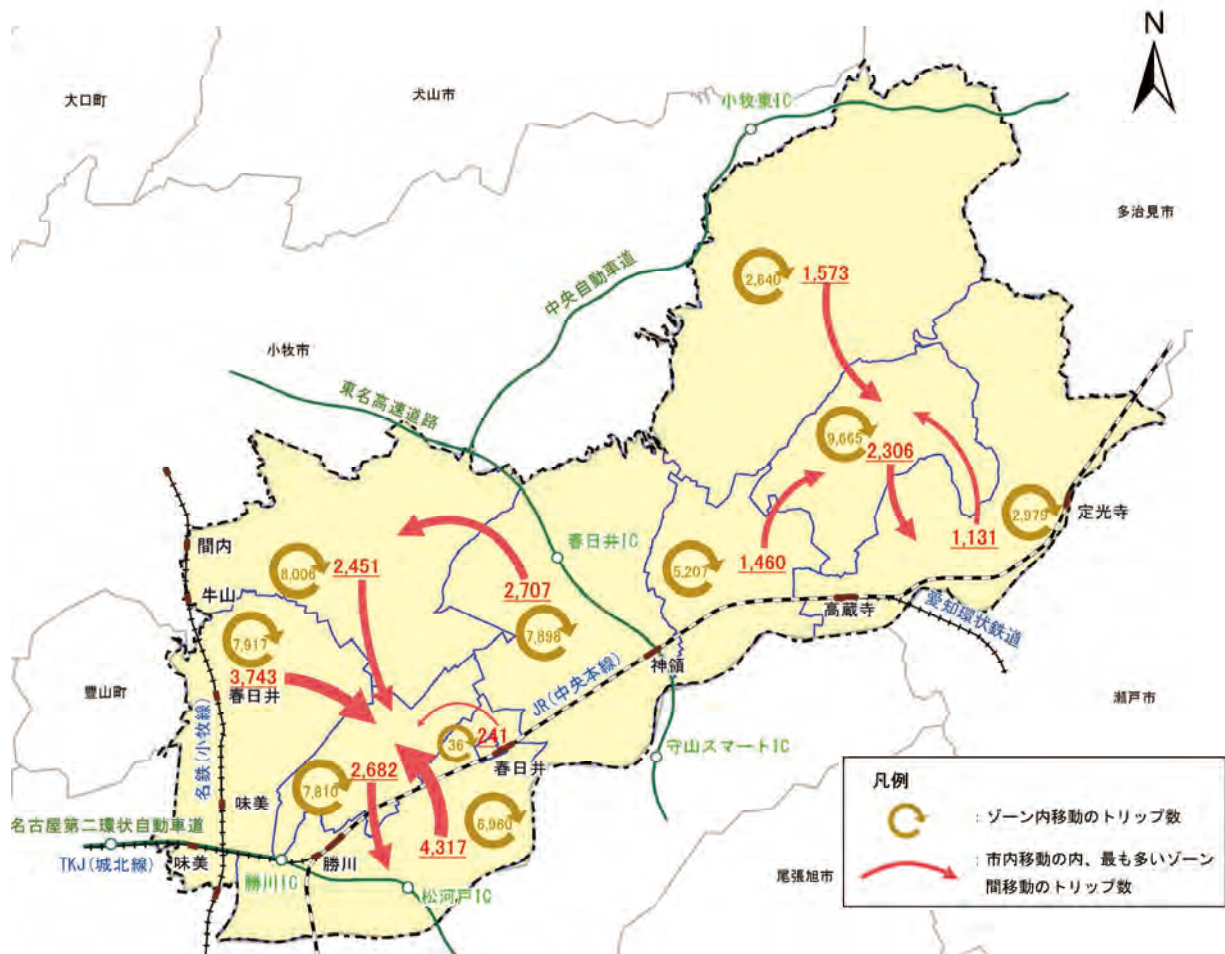


資料：国土数値情報 交通流動量（パーソントリップ発生・集中量データ）(H23)

■「通勤・通学」目的の移動実態

2) 「自由」目的の移動実態

「自由」目的の移動実態は、高蔵寺ニュータウンで地区内の移動が多くなっています。また、JR神領駅周辺を境として市内の東部と西部で分かれており、それぞれの内部での移動が多くなっています。



資料：国土数値情報 交通流動量（パーソントリップ発生・集中量データ）(H23)

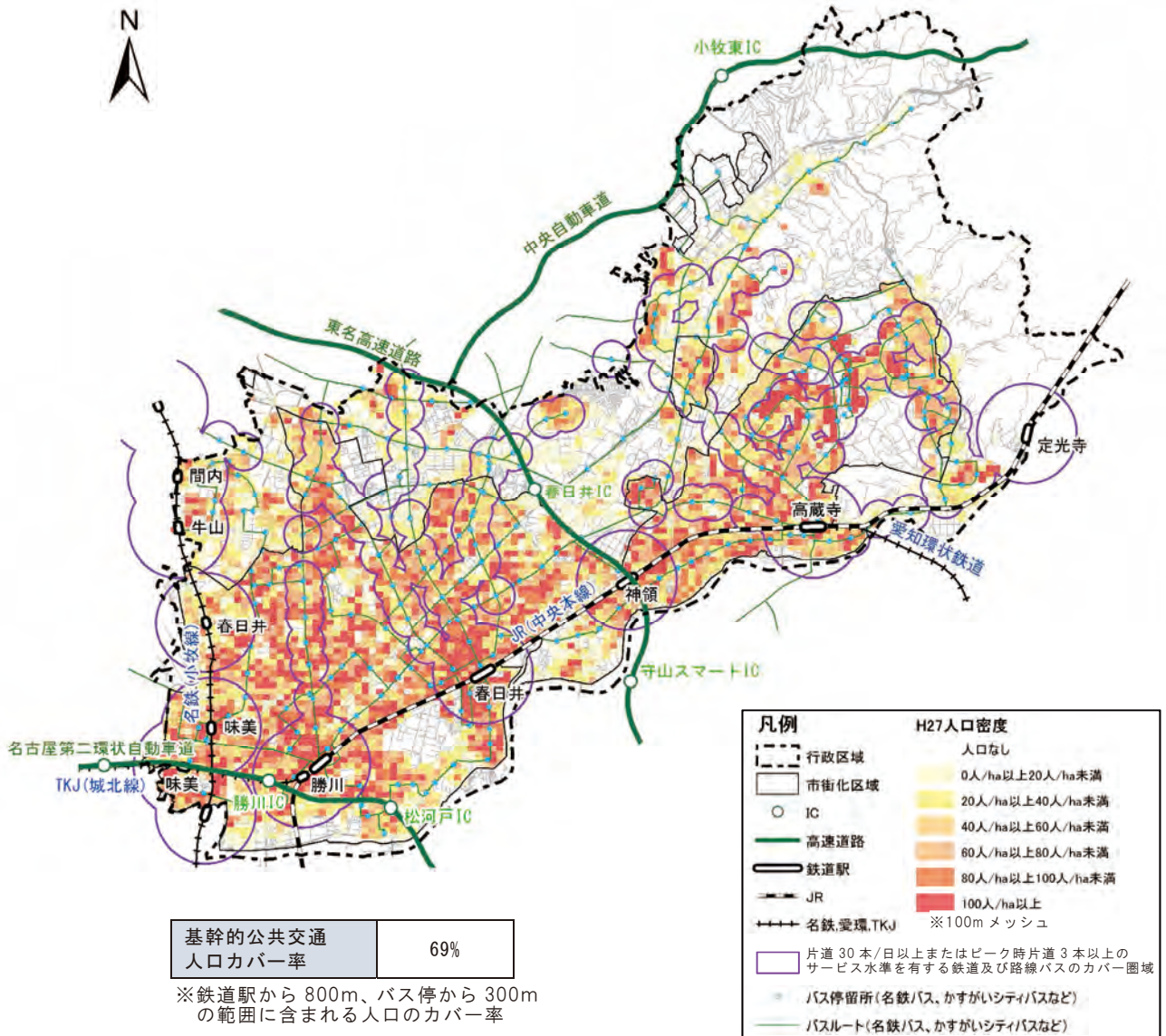
■ 「自由」目的の移動実態

(4) 公共交通の人口カバー状況

■視点1：人口減少・少子高齢化への対応

1) 基幹的公共交通の人口カバー状況

基幹的公共交通の人口カバー率は、平成30年（2018年）時点で69%となっています。



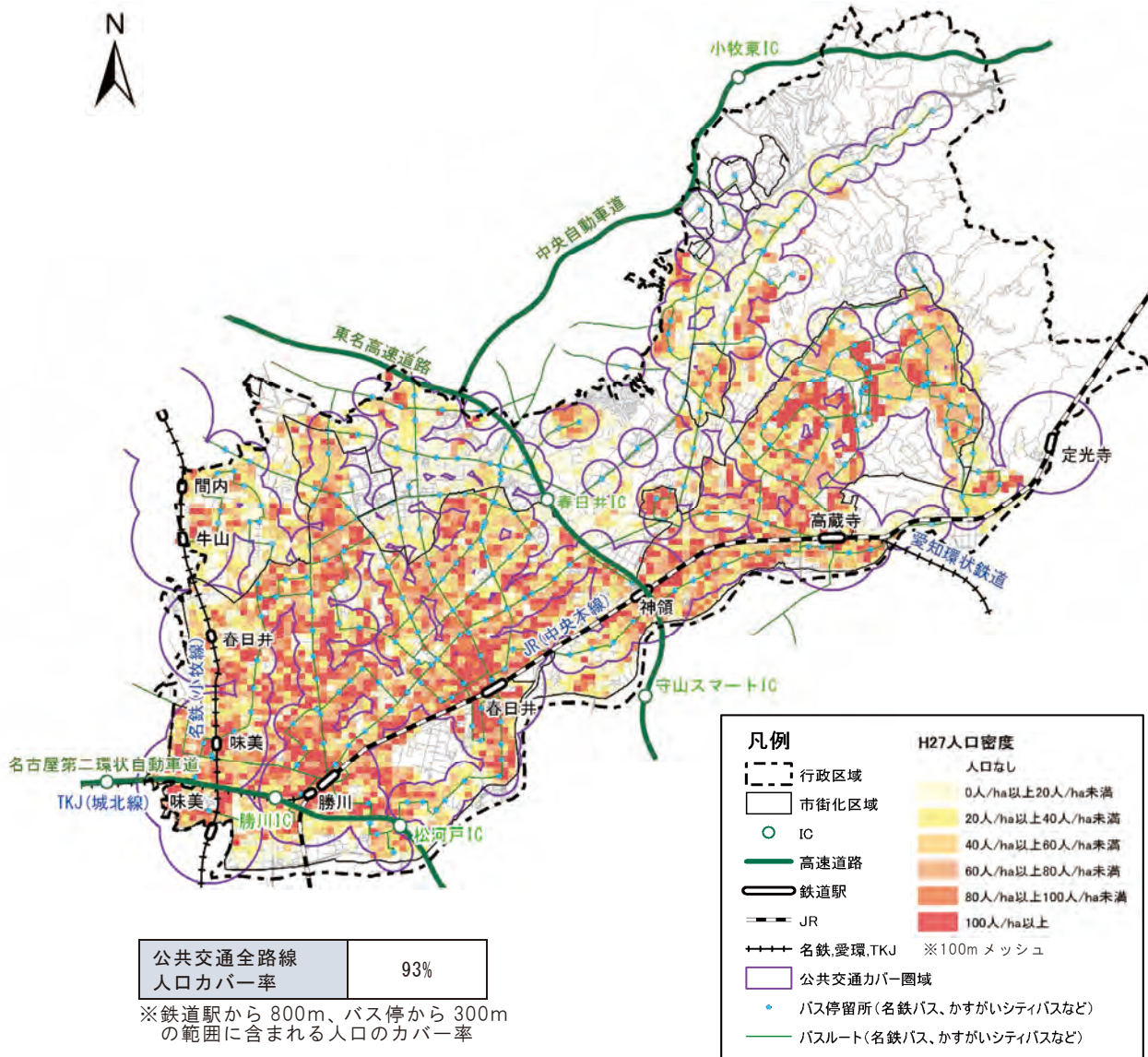
資料：国勢調査（H27）、名鉄バス（H30）、あおい交通（H30）、春日井市資料（H30）

※基幹的公共交通の定義：片道30本/日以上またはピーク時片道3本以上のサービス水準を有する鉄道及び路線バス

■基幹的公共交通の人口カバー状況

2) 公共交通全路線の人口カバー状況

公共交通全路線の人口カバー率は、平成30年（2018年）時点で93%となっています。



資料：国勢調査（H27）、名鉄バス（H30）、あおい交通（H30）、春日井市資料（H30）

■公共交通全路線の人口カバー状況

(5) 周辺市町との移動実態

■視点2：産業の活性化

1) 「通勤・通学」目的の移動実態

周辺市町との移動実態は、平成27年(2015年)時点で、流入が、隣接する名古屋市、小牧市、多治見市、瀬戸市で多く占めており、流出は、名古屋市が過半数を占め、小牧市、瀬戸市、豊田市も多くなっています。

本市全体では、流出超過となっていますが、多治見市、一宮市、犬山市などからは流入超過となっています。

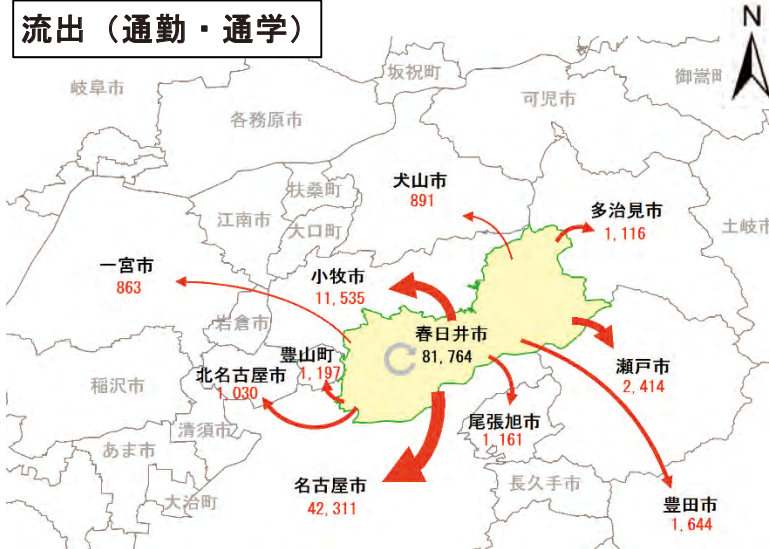
流入（通勤・通学）



市町村名	流入 (人)	割合 (%)
春日井市内	81,764	60%
春日井市外	49,017	36%
上位10自治体	名古屋市	16,339 (33.3%)
	小牧市	6,976 (14.2%)
	多治見市	3,267 (6.7%)
	瀬戸市	2,450 (5.0%)
	一宮市	1,653 (3.4%)
	尾張旭市	1,501 (3.1%)
	犬山市	1,166 (2.4%)
	可児市	951 (1.9%)
	北名古屋市	913 (1.9%)
	土岐市	881 (1.8%)
市外(その他)	12,920 (26.4%)	
不詳	4,517 (3%)	
合計	135,298	100%

■「通勤・通学」目的の流入状況

流出（通勤・通学）



市町村名	流出 (人)	割合 (%)
春日井市内	81,764	51%
春日井市外	75,949	47%
上位10自治体	名古屋市	42,311 (55.7%)
	小牧市	11,535 (15.2%)
	瀬戸市	2,414 (3.2%)
	豊田市	1,644 (2.2%)
	豊山町	1,197 (1.6%)
	尾張旭市	1,161 (1.5%)
	多治見市	1,116 (1.5%)
	北名古屋市	1,030 (1.4%)
	犬山市	891 (1.2%)
	一宮市	863 (1.1%)
市外(その他)	11,787 (15.5%)	
不詳	3,941 (2%)	
合計	161,654	100%

■「通勤・通学」目的の流出状況

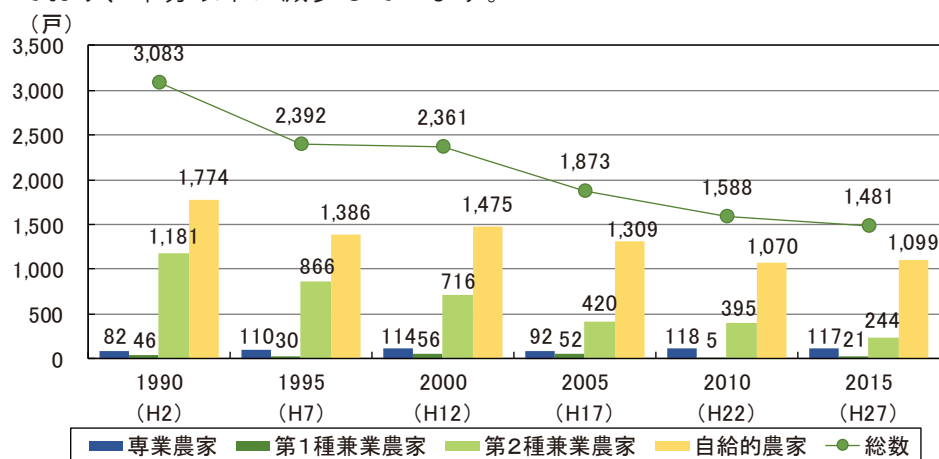
資料：国勢調査 (H27)

(6) 産業構造

■ 視点2：産業の活性化

1) 農業の動向

農家数は、平成2年(1990年)には3,083戸でしたが、平成27年(2015年)には1,481戸となっており、半分以下に減少しています。



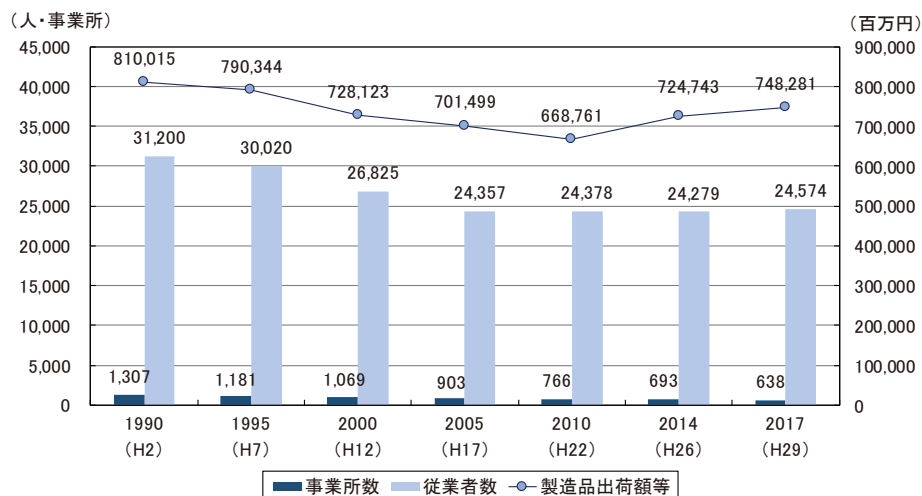
資料：春日井市統計書 (H30)

■ 農家数の推移

2) 工業の動向

事業所数は、減少傾向にあります。従業者数は、平成17年(2005年)までは減少、平成17年(2005年)以降は横ばいとなっています。

製造品出荷額等は、平成22年(2010年)を境に増加に転じ、平成29年(2017年)には748,281百万円となっていますが、県内順位は18位で、人口規模(6位)や面積規模(14位)からすると低い水準となっています。



注：従業者4人以上の事業所(製造業)

資料：工業統計調査 (H2~H29)

■ 事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移

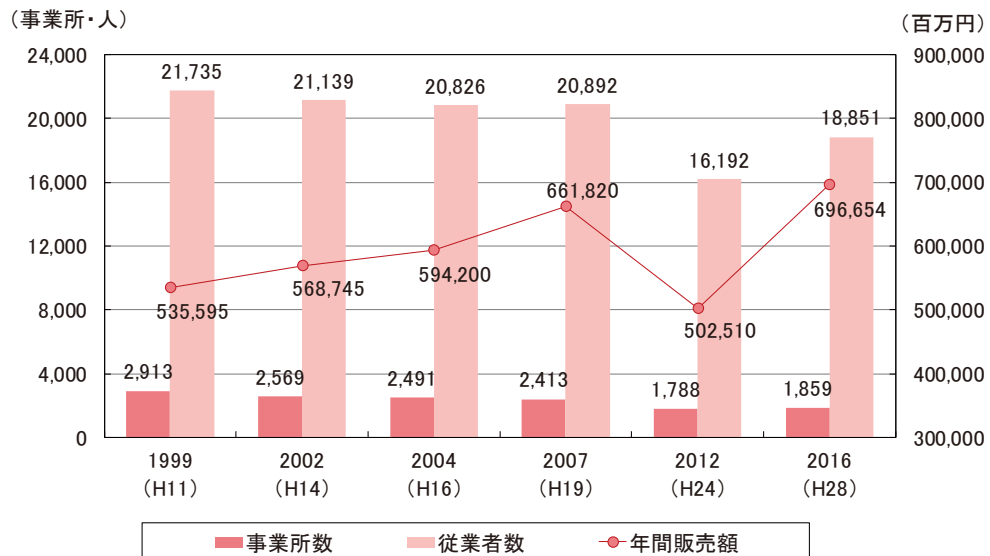
また、工業地域及び工業専用地域の地域内には、一団の未利用地がほぼ残存していない状況です。

種別	自然的土地利用					都市的土地利用									合計 (ha)
	田 (ha)	畑 (ha)	山林 (ha)	水面 (ha)	自然その他 (ha)	住宅用地 (ha)	商業用地 (ha)	工業用地 (ha)	公益的・ 公用地 (ha)	道路用地 (ha)	交通施設 用地 (ha)	公共空地 (ha)	その他 空地 (ha)	低未 利用 地 (ha)	
工業系	11.1	14.8	9.1	8.3	14.8	142.6	84.4	338.7	57.3	131.9	18.7	16.3	4.5	33.4	886.0
準工業地域	11.1	14.6	0.1	3.8	5.4	132.1	57.7	107.8	45.6	103.3	15.4	13.6	4.5	27.9	543.0
	(2.0%)	(2.7%)	(0.0%)	(0.7%)	(1.0%)	(24.3%)	(10.6%)	(19.9%)	(8.4%)	(19.0%)	(2.8%)	(2.5%)	(0.8%)	(5.1%)	(100%)
工業地域	0.0	0.2	0.7	1.8	3.7	9.4	21.9	48.9	8.8	13.8	1.5	2.5	0.0	4.7	118.0
	(0.0%)	(0.1%)	(0.6%)	(1.5%)	(3.1%)	(8.0%)	(18.6%)	(41.4%)	(7.5%)	(11.7%)	(1.3%)	(2.2%)	(0.0%)	(4.0%)	(100%)
工業専用地域	0.0	0.0	8.3	2.7	5.8	1.0	4.8	182.0	2.9	14.8	1.8	0.2	0.0	0.8	225.0
	(0.0%)	(0.0%)	(3.7%)	(1.2%)	(2.6%)	(0.4%)	(2.1%)	(80.9%)	(1.3%)	(6.6%)	(0.8%)	(0.1%)	(0.0%)	(0.4%)	(100%)

資料：都市計画基礎調査（H30）

3) 商業の動向

商業の動向は、事業所数、従業者数、年間販売額ともに、リーマンショックなどの影響もあり、平成19年（2007年）から平成24年（2012年）にかけて大幅な減少があるものの、平成24年（2012年）を境に増加に転じています。



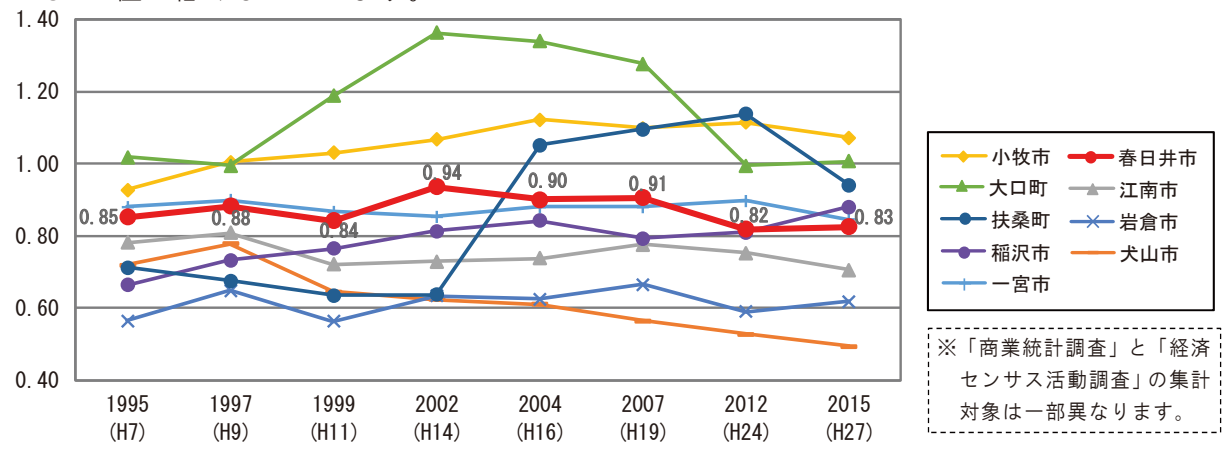
資料：商業統計調査（H11～H19）、経済センサス活動調査（H24、H28）

※「商業統計調査」と「経済センサス活動調査」の集計対象は一部異なります。

■事業所数・従業者数・年間販売額の推移

4) 小売吸引力指数

小売吸引力指数は、平成7年（1995年）から平成27年（2015年）の20年間で横ばいとなっており、周辺都市の小牧市や大口町に比べ値が低くなっています。また、県内順位も25位と低くなっています。



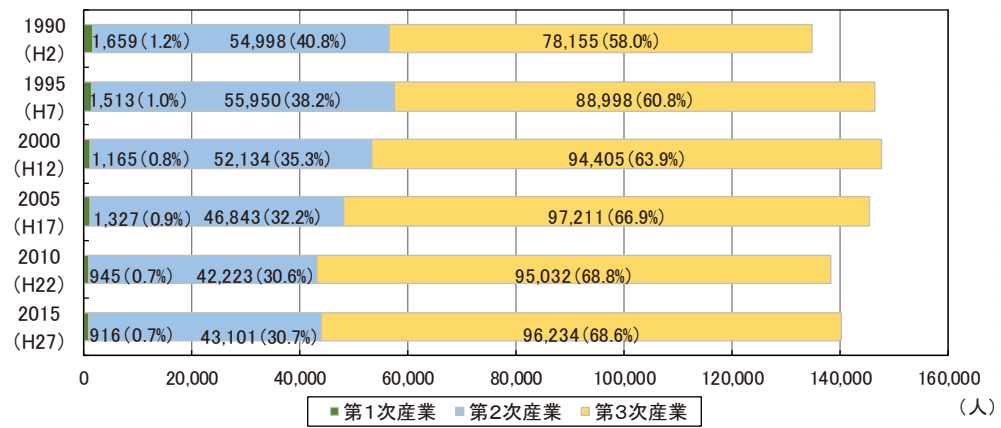
資料：国勢調査（H7～H27）、商業統計調査（H7～H19）、経済センサス活動調査（H24、H28）

■ 小売吸引力指数の推移

5) 産業別就業者数の動向

産業別就業者数は、平成27年（2015年）において、第1次産業916人、第2次産業43,101人、第3次産業96,234人となっています。

第1次産業就業者数は減少傾向にあります。その比率はわずかとなっています。第2次産業の就業者数の比率は、平成22年（2010年）まで減少、その後、横ばいの約3割となっています。



資料：国勢調査（H2～H27）

※産業分類
 第1次産業 農業、林業、漁業
 第2次産業 鉱業、採石業、砂利採取業、建設業、製造業
 第3次産業 電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、郵便業、卸売業、小売業、金融業、保険業、不動産業、物品賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業、教育、学習支援業、医療、福祉、複合サービス事業、サービス業（他に分類されないもの）、公務（他に分類されるものを除く）

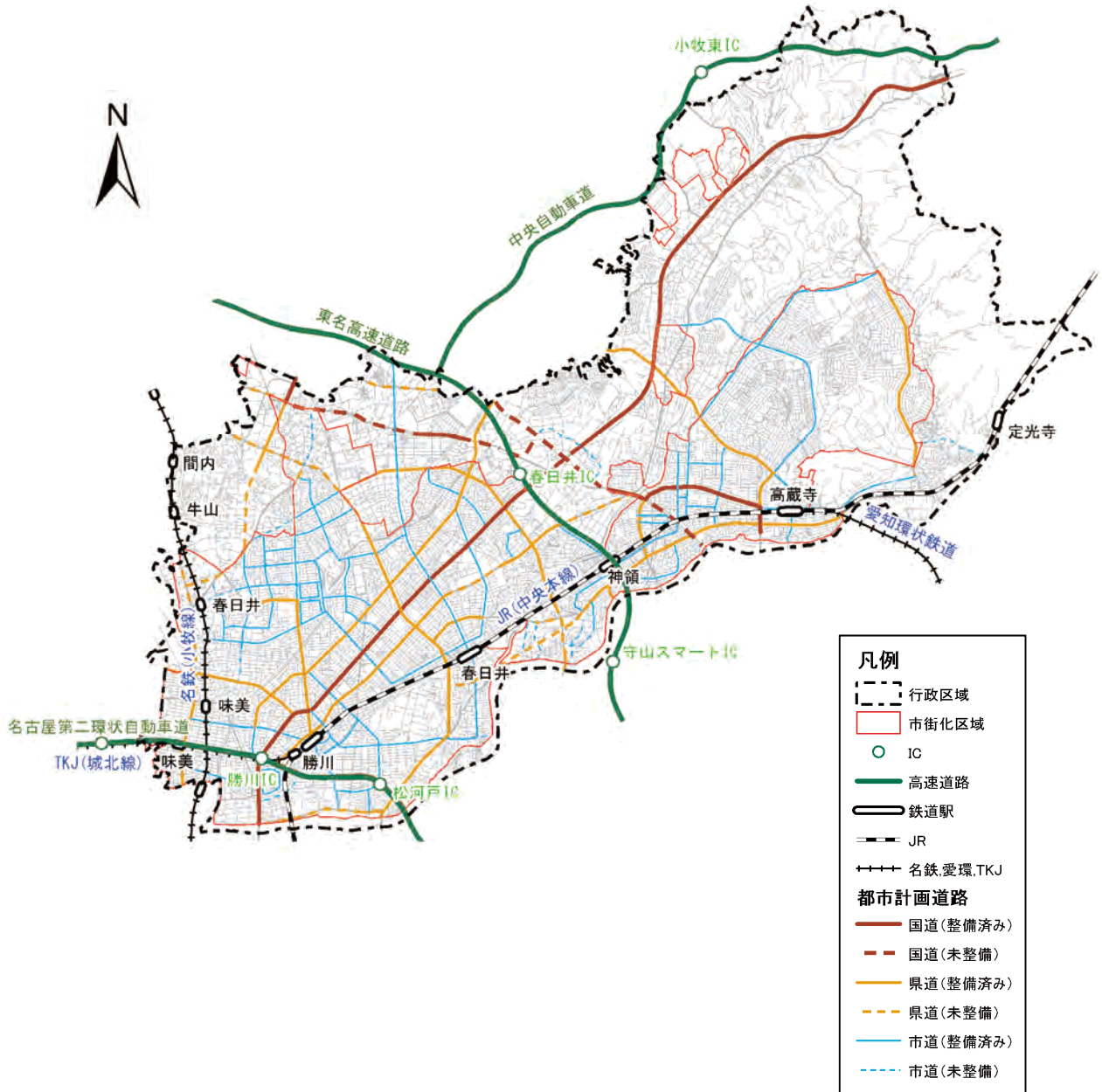
■ 産業別就業者数の構成数の推移

(7) 都市基盤（道路）の状況

■視点2：産業の活性化

1) 都市計画道路

都市計画道路は、市街化区域については整備がほぼ完了していますが、現在施行中の土地区画整理事業区域内などに未整備区間が存在します。市街化調整区域については、小牧市に接続する道路で未整備区間が多くあります。

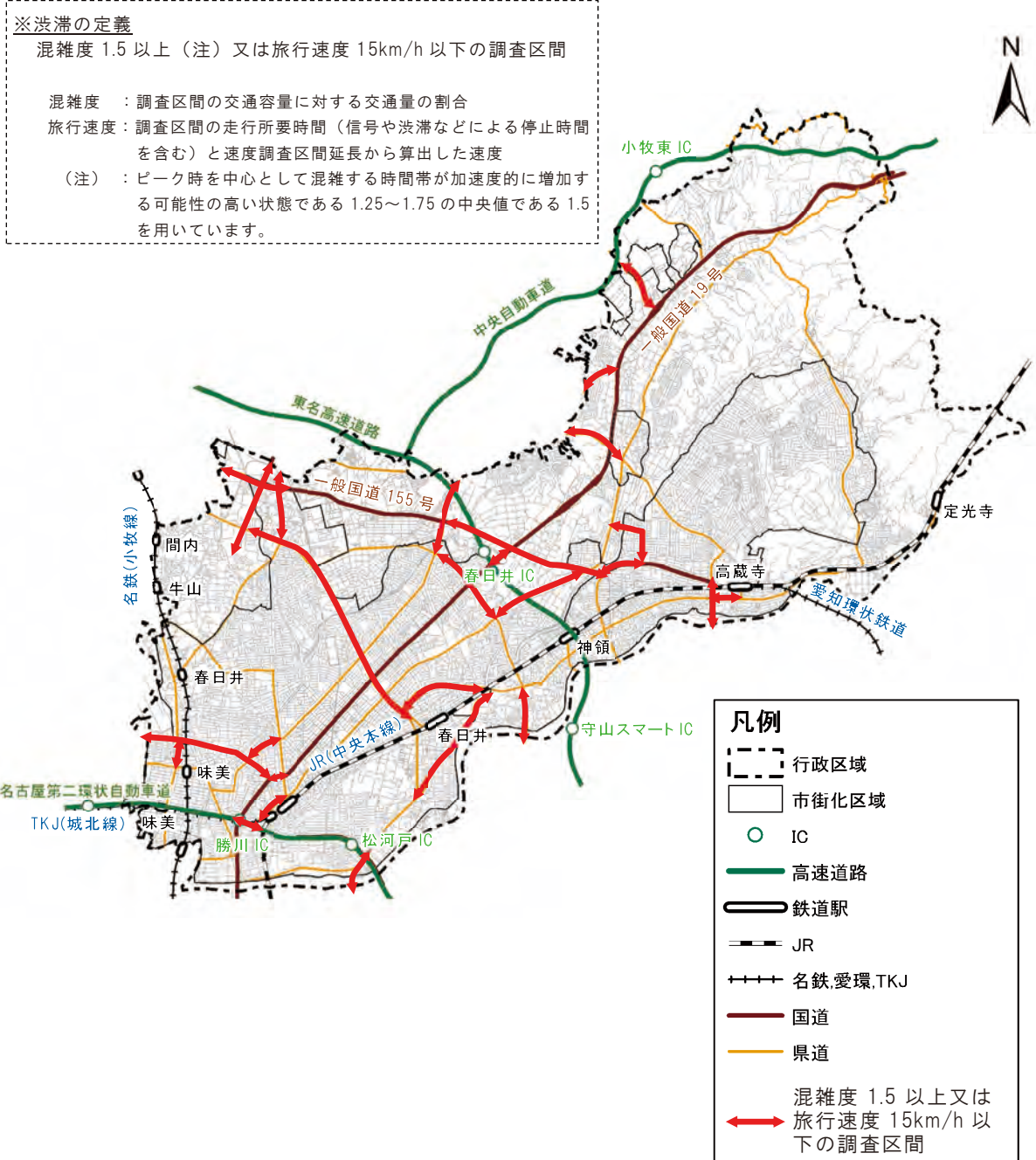


資料：春日井市資料（H30）

■都市計画道路の整備状況

2) 道路の混雑状況

道路の混雑状況は、市内の幹線道路のうち、一般国道 19 号にアクセスする道路で渋滞している区間が見られます。そのほか、一般国道 155 号や市北部など、都市計画道路の未整備区間となっている周辺道路においても、渋滞している区間が見られます。



資料：道路交通センサス（H27）

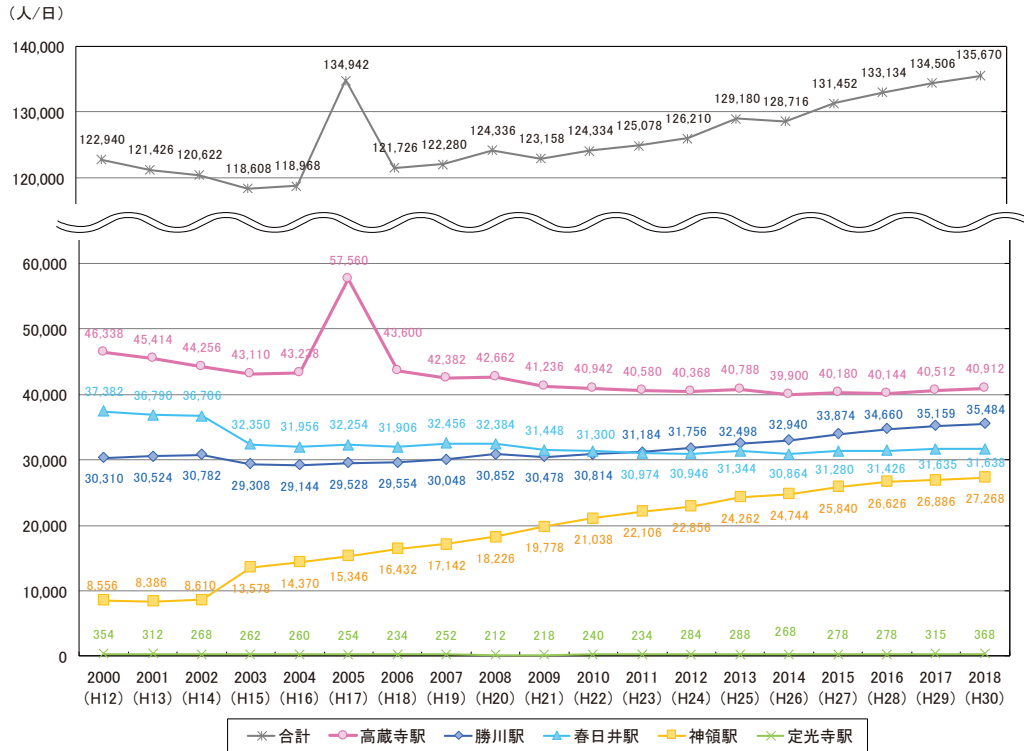
■ 道路の混雑状況

(8) 公共交通の利用状況

■視点3：子育て世代が魅力的と感じる都市づくり

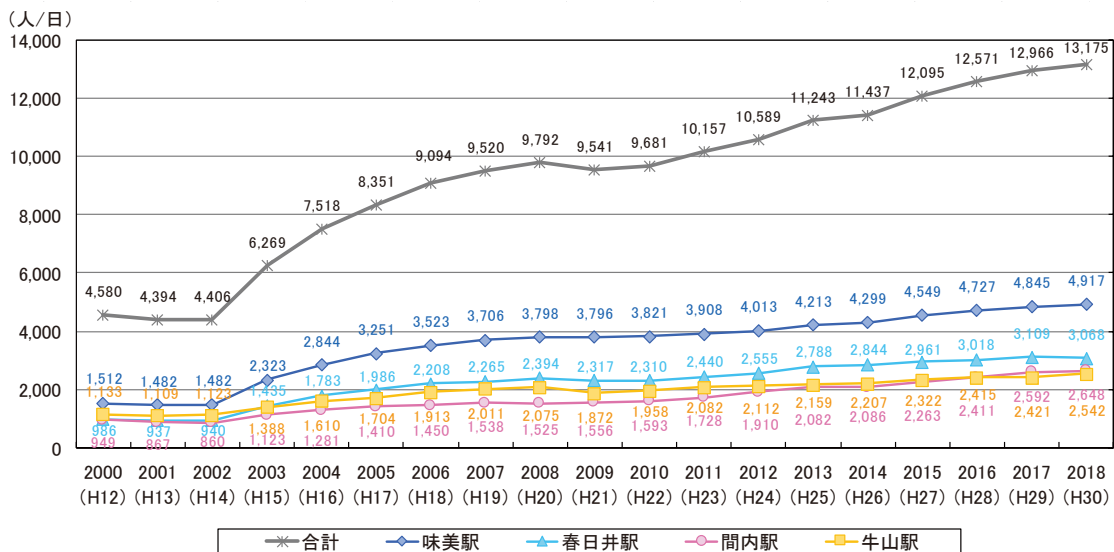
1) 鉄道

JR中央本線の利用者数は、JR勝川駅及びJR神領駅が増加傾向である一方、JR春日井駅及びJR高蔵寺駅は横ばいとなっています。名鉄小牧線の乗降客数は、すべての駅で増加傾向にあります。鉄道駅の乗降客数の合計は、1日あたり約15万人です。



資料：春日井市資料 (H30)

■ JR中央本線 乗降客数

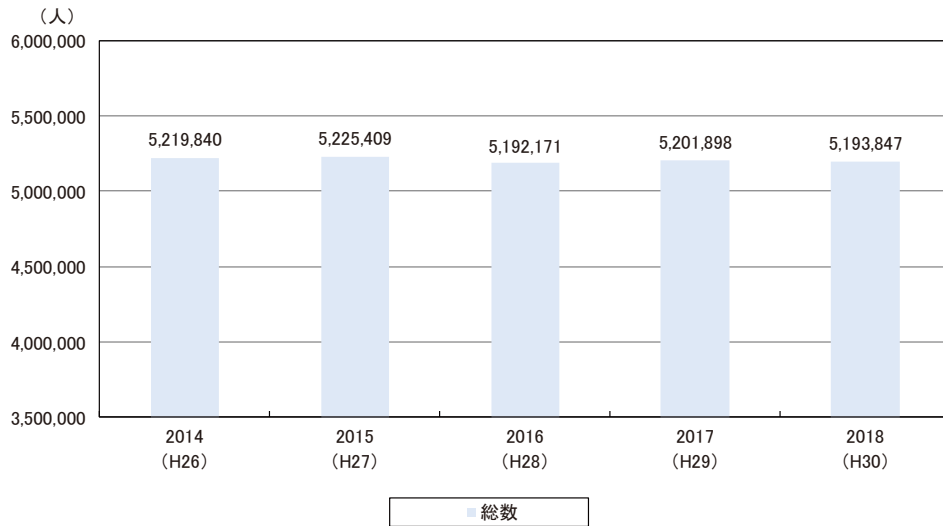


資料：春日井市資料 (H30)

■ 名鉄小牧線 乗降客数

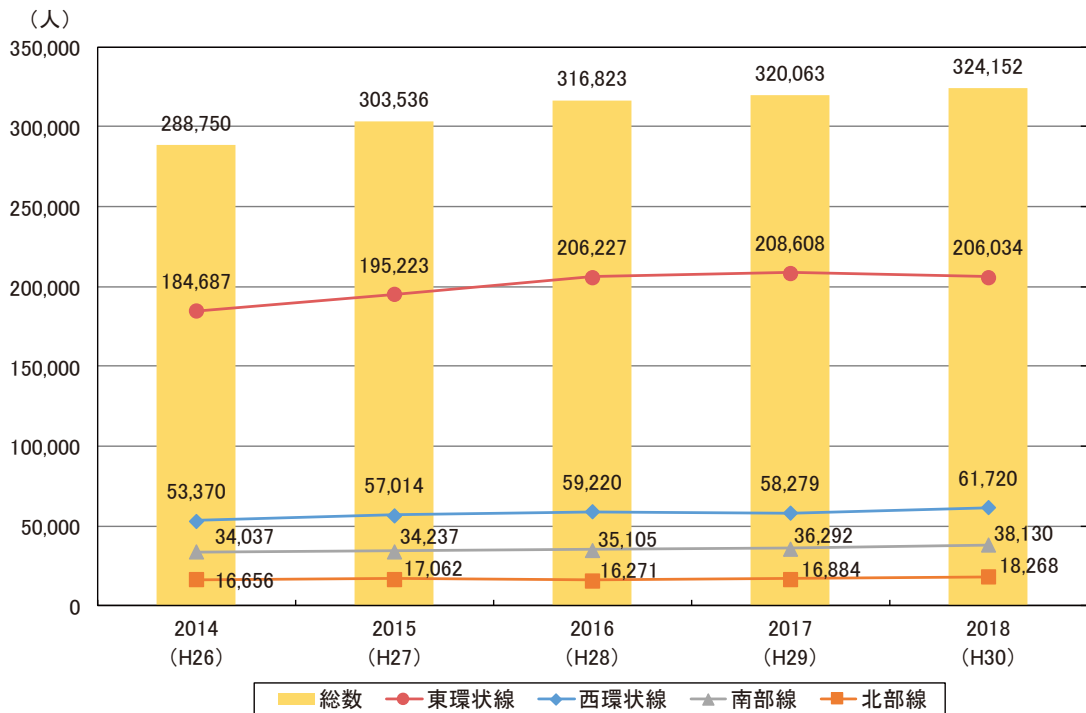
2) バス

名鉄バスの年間利用者数は、横ばいとなっています。かすがいシティバスの年間利用者数は、増加傾向にあります。サンマルシェ循環バスの年間利用者数は、藤山台ルートでゆるやかな増加傾向、石尾台ルートで横ばいとなっています。



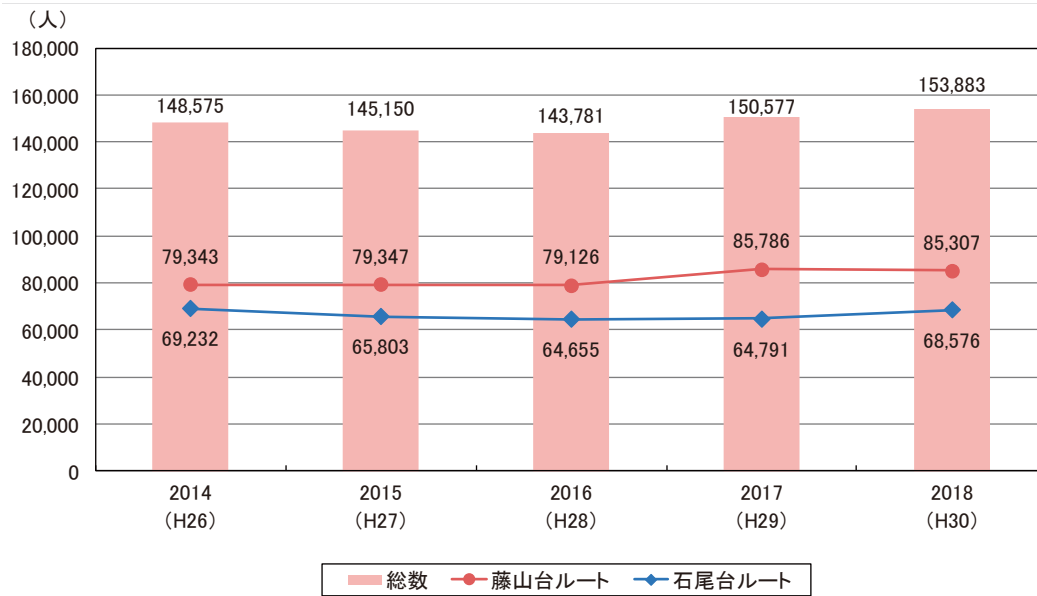
資料：春日井市資料（H30）

■名鉄バス 年間利用者数



資料：春日井市資料（H30）

■かすがいシティバス 年間利用者数



資料：春日井市資料（H30）

■サンマルシェ循環バス 年間利用者数

(9) 都市基盤（公園緑地）の状況

■視点3：子育て世代が魅力的と感じる都市づくり

公園及び緑地は、平成30年（2018年）時点で、232箇所の都市計画公園、1箇所の都市計画墓園、14箇所の都市計画緑地があります。また、市民1人あたりの都市公園面積（約11㎡/人）は県内でも高い水準にあります。



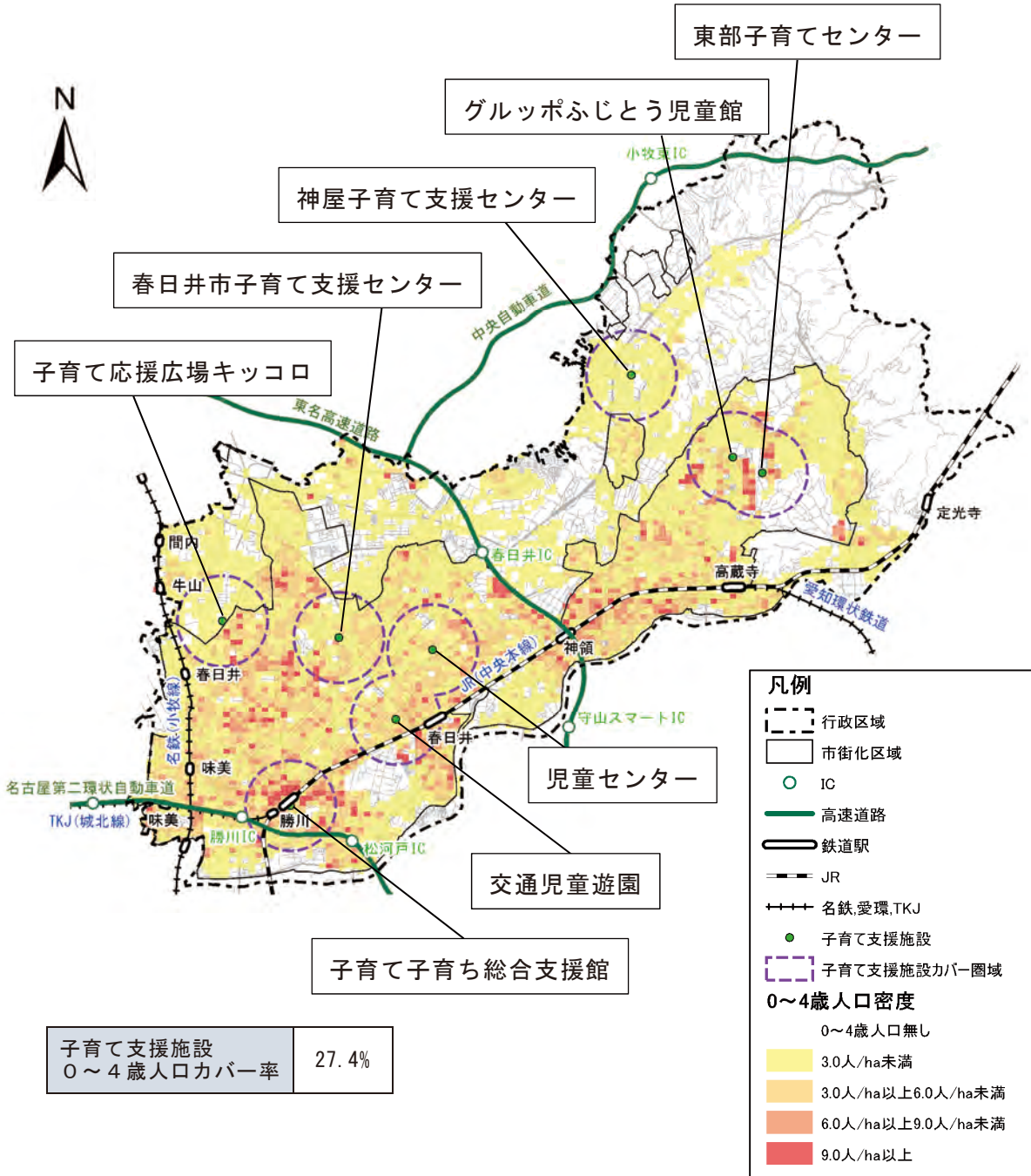
資料：春日井市資料 (H30)

■都市計画公園・緑地

(10) 子育て支援施設の分布状況

■視点3：子育て世代が魅力的と感じる都市づくり

未就園児とその保護者が利用できる子育て支援施設は、平成30年（2018年）時点で8箇所あります。子育て支援施設の徒歩圏カバー率（徒歩圏域は施設より800m）は27.4%となっており、多くが市街化区域内に分布しています。



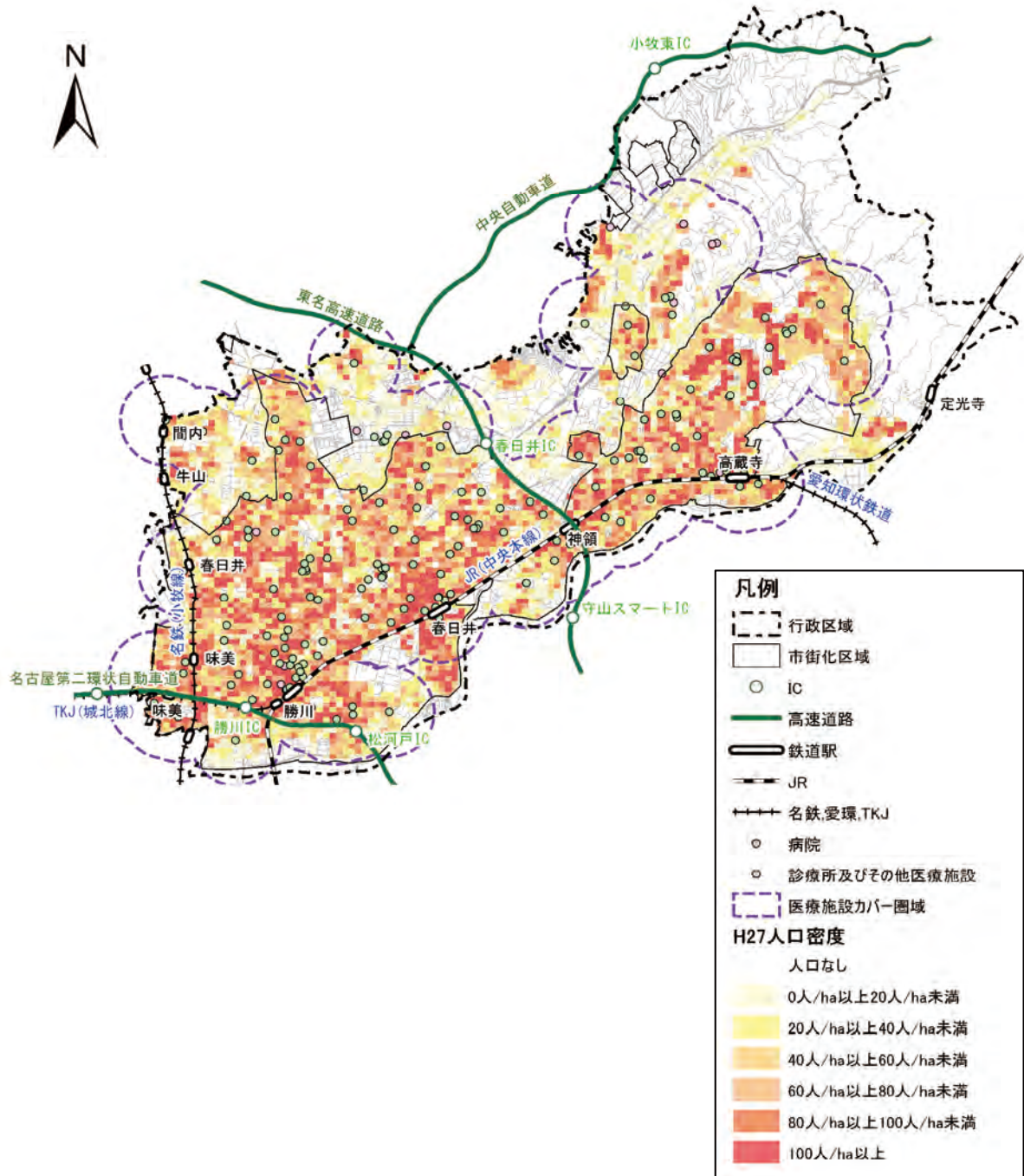
資料：春日井市資料（H30）、国勢調査（H27）

■子育て支援施設の徒歩利用圏

(11) 医療施設の分布状況

■視点3：子育て世代が魅力的と感じる都市づくり

医療施設は、病院が13箇所、診療所及びその他の医療機関が186箇所あり、市内に広く分布しています。

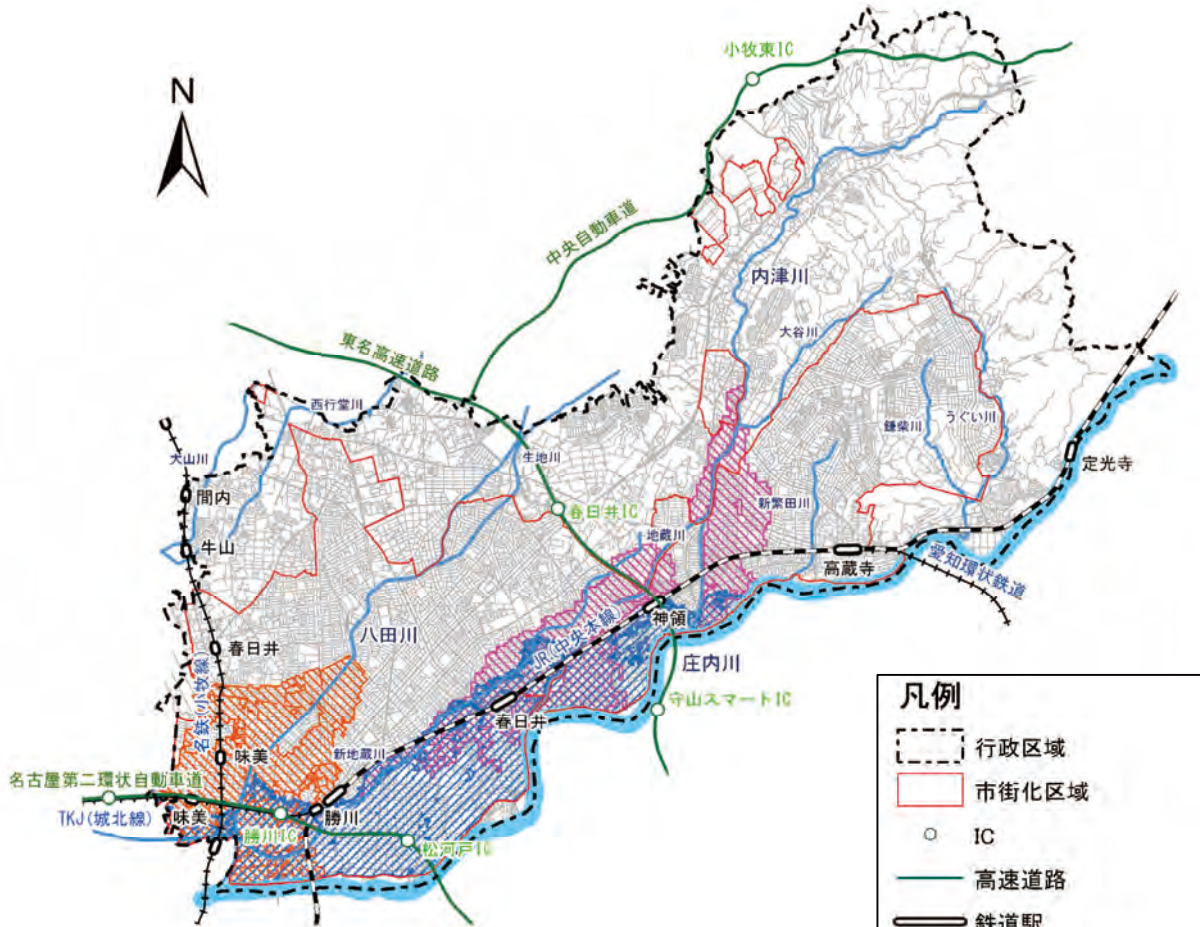


資料：国土数値情報(H22, H26)、国勢調査(H27)

■医療施設の徒歩利用圏

1) 浸水想定区域

浸水想定区域は、庄内川、内津川及び八田川が指定されています。庄内川が氾濫した場合は、東名高速道路の西側で、JR中央本線及びTKJ城北線の南側のエリア一帯での浸水が想定されています。内津川が氾濫した場合は、内津川東側のエリア及びJR神領駅からJR春日井駅の鉄道沿いで浸水が想定されています。八田川が氾濫した場合は、市南西エリアの浸水が想定されています。



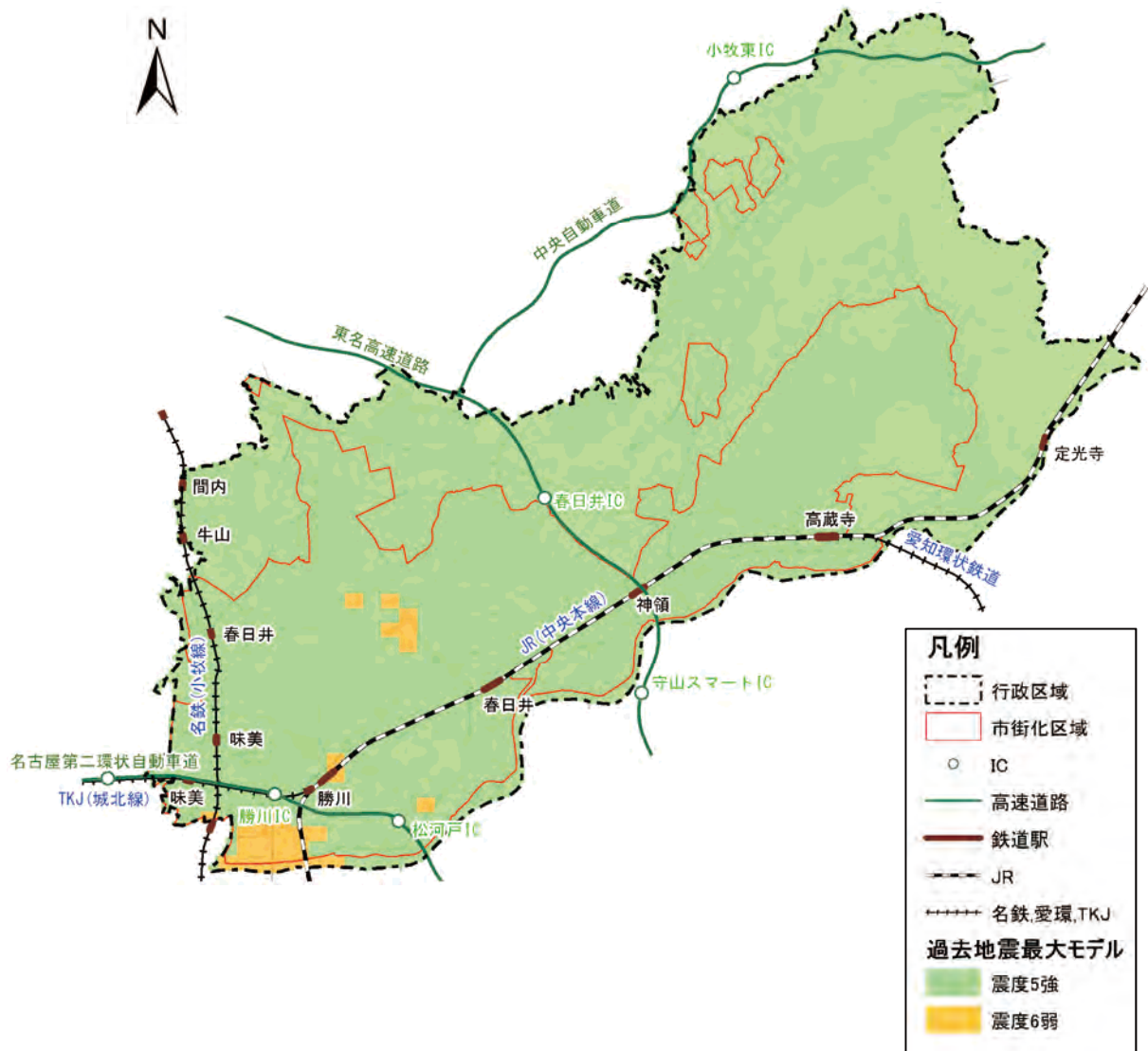
※庄内川、内津川、八田川の浸水想定区域図より作成しています。各河川について、想定した降雨は以下のとおりです。

- ①庄内川…1日に376mm(概ね200年に1回程度)の大雨が降ったことにより河川が氾濫した場合に想定される浸水の状況をシミュレーションにより求めたものです(国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所、平成28年12月15日)。
- ②内津川…1日に316mm(概ね50年に1回程度)の大雨が降ったことにより河川が氾濫した場合に想定される浸水の状況をシミュレーションにより求めたものです(愛知県、平成20年6月1日)。
- ③八田川…1日に276.6mm(概ね30年に1回程度)の大雨が降ったことにより河川が氾濫した場合に想定される浸水の状況をシミュレーションにより求めたものです(愛知県、平成21年6月1日)。

■外水氾濫による浸水想定区域図

2) 地震防災

南海トラフを震源とする地震によって想定される震度は、「愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果」に基づく過去地震最大モデルの場合、震度5強から6弱となっています。

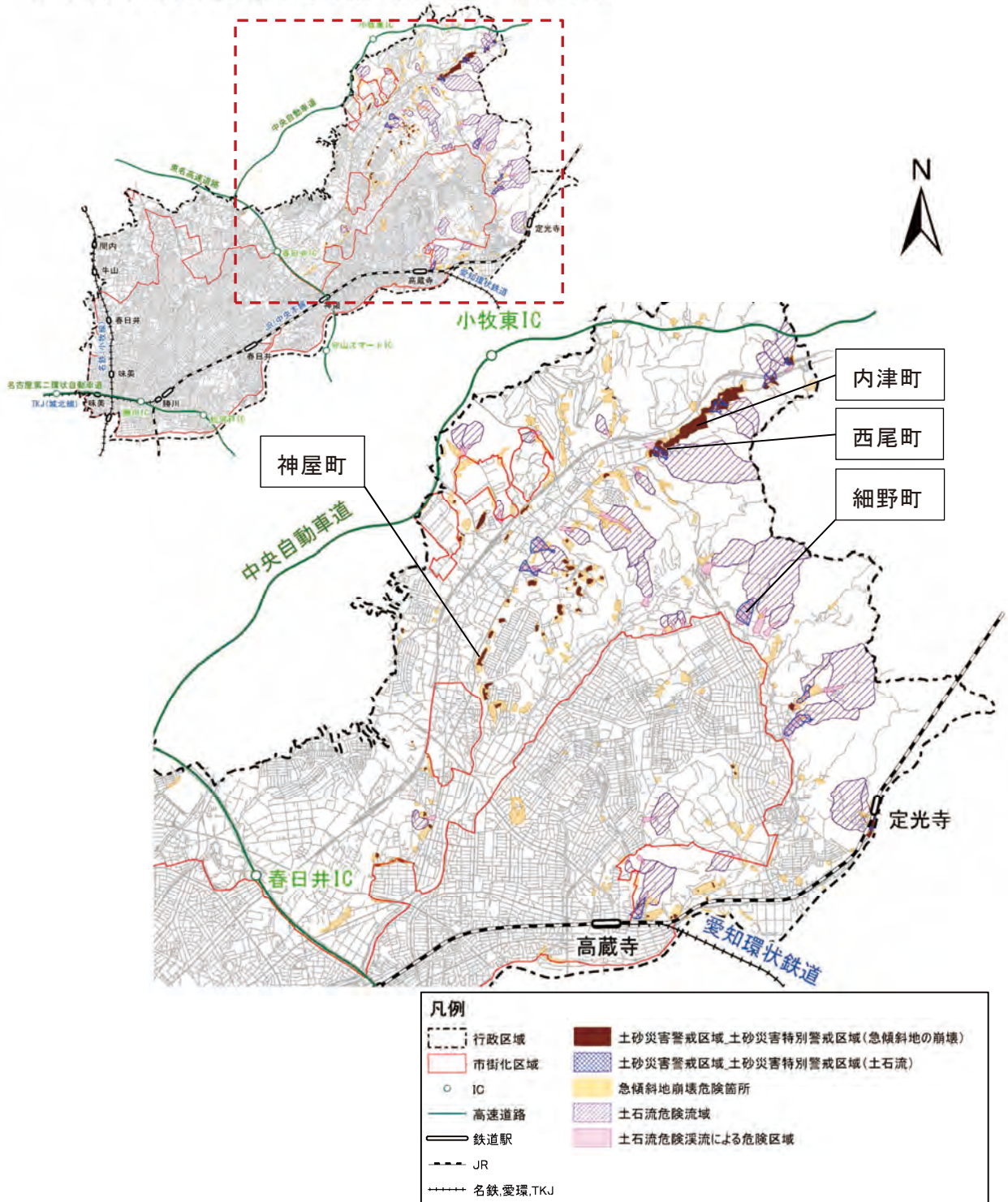


資料：愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果（H23～H25）

■地震によって想定される震度（過去地震最大モデル）

3) 土砂災害

土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域は、市北東部を中心に点在しています。なかでも、内津町内の県道内津勝川線沿道に一団で指定されている区域が見られます。

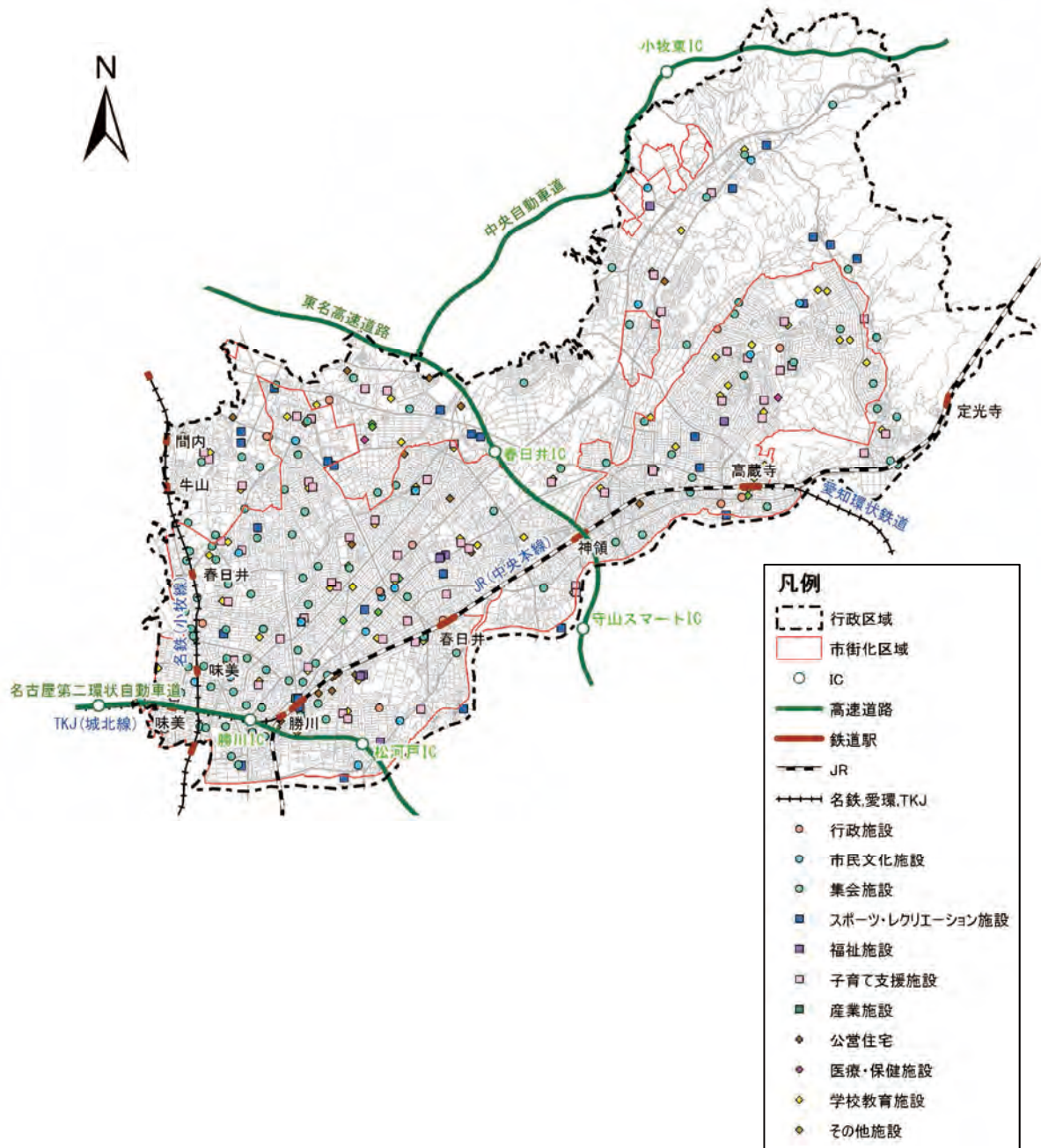


資料：春日井市資料(H30)

■土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域

1) 主な公共施設の分布状況

公共施設は、JR勝川駅周辺やJR春日井駅周辺のほか、高蔵寺ニュータウンに多く分布しています。一方で、古くから市街地を形成してきた牛山町、鷹来町、坂下町などにおいても一定の施設分布が見られます。

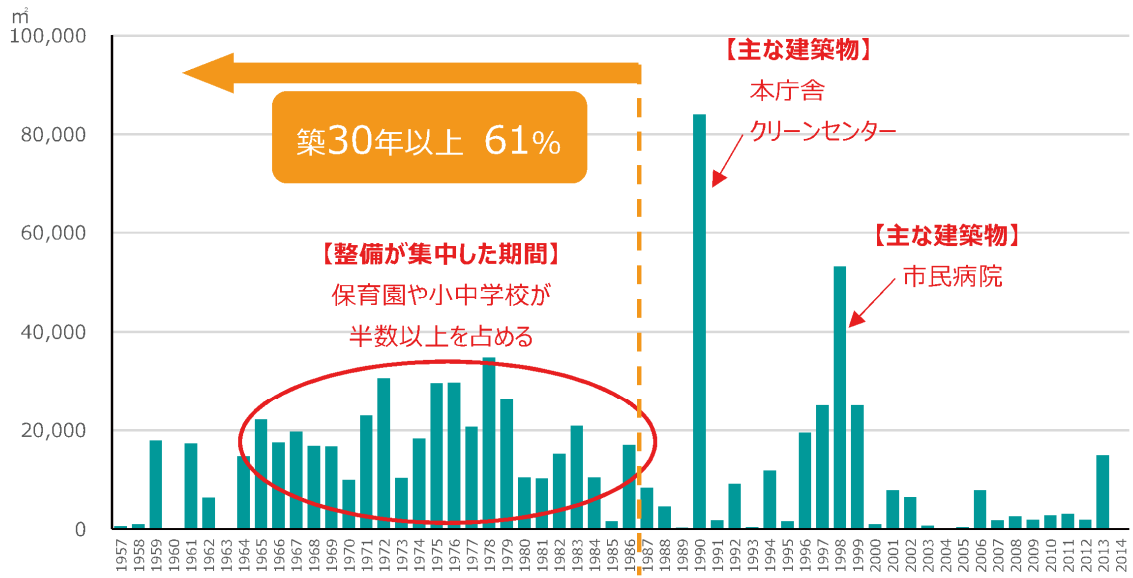


資料：春日井市公共施設等マネジメント計画（H29）

■主な公共施設の分布

2) 公共施設の維持管理の保有状況

公共施設数は 323 施設、総延床面積は 709,864 m²です。これらのうち、平成 28 年(2016 年)度時点において、築 30 年以上の施設(昭和 61 年(1986 年)度以前に建てられた施設)の割合が約 61%となっています。



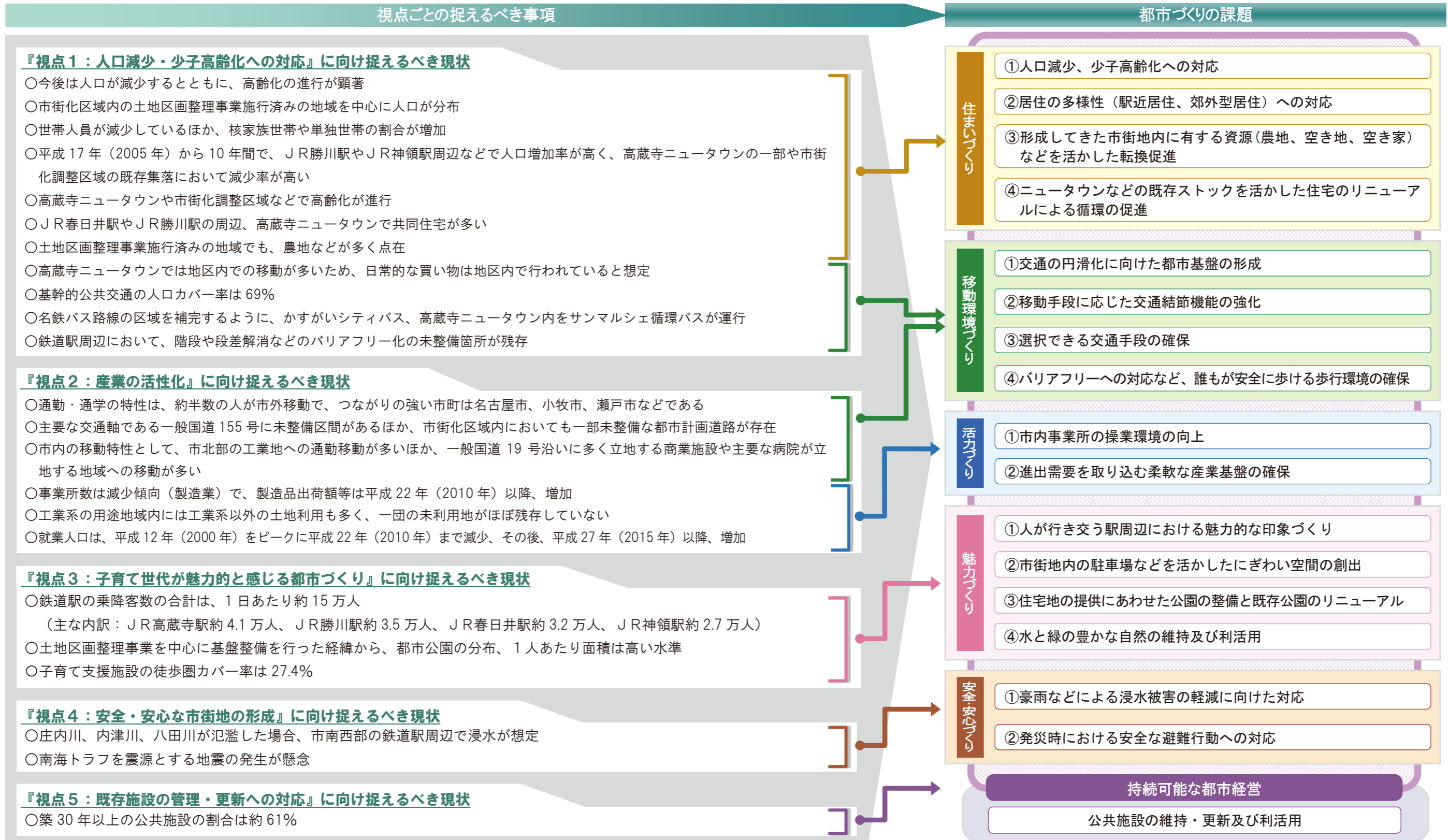
資料：春日井市公共施設等マネジメント計画（H29）

■ 公共施設等建築物の年度別整備延床面積

3 都市づくりの課題

(1) 都市づくりの課題

都市づくりの課題は、捉えるべき社会情勢、現況調査における地域特性を整理するとともに、地域懇談会などを参考に整理しています。



(2) 地域懇談会の概要

1) 実施目的

計画の作成にあたり、市民からお住まいの地域の現状や将来のまちづくりについてのご意向を把握することを目的に『地域懇談会』を開催しました。

2) 開催日程・参加者数

地域懇談会は市内4会場にて各2回(計8回)開催しました。各会場の開催日時及び参加者数は下表のとおりです。延べ212人の市民にご参加いただきました。

会場	開催日時	参加者数
西部ふれあいセンター	第1回 平成30年11月10日(土) 午前10時00分～	21人
	第2回 平成30年12月15日(土) 午前10時00分～	19人
レディヤンかすがい	第1回 平成30年11月17日(土) 午後1時30分～	22人
	第2回 平成30年12月16日(日) 午前10時00分～	21人
グリーンパレス春日井	第1回 平成30年11月17日(土) 午前10時00分～	27人
	第2回 平成30年12月16日(日) 午後1時30分～	23人
グルッポふじとう	第1回 平成30年11月10日(土) 午後1時30分～	43人
	第2回 平成30年12月15日(土) 午後1時30分～	36人
合計(延べ)		212人

3) 各回の実施概要

❖ 第1回地域懇談会

第1回地域懇談会では、まちづくりに関連する5つのキーワード「①住まいづくり」、「②移動環境づくり」、「③活力づくり」、「④魅力づくり」、「⑤安全・安心づくり」に関する地域の『強み・弱み』を参加者の方にそれぞれお考えいただき、同じ地域にお住まいの皆さまのご意見を共有していただきました。

意見交換のテーマ

まちの“イマ”を見つめよう
～地域の『強み・弱み』について～



❖ 第2回地域懇談会

第2回地域懇談会では、地域にとって『残すべきもの・変えるべきもの』、『地域でできること』について意見交換を行っていただきました。また、これまでのご意見を振り返りながら、それぞれの地域で『まちづくりのキーワード』を考えていただきました。

意見交換のテーマ

まちの“ミライ”を見つめよう
～地域にとって『残すべきもの・変えるべきもの』について～



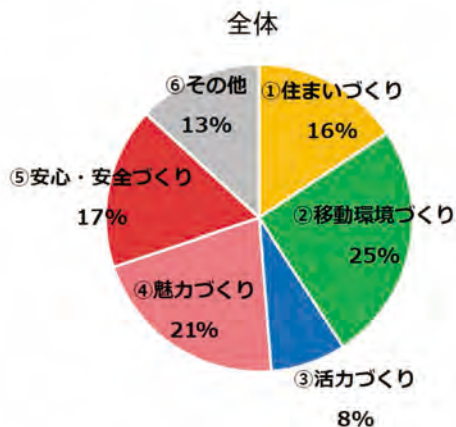
4) 第1回地域懇談会の結果概要

意見数が多かったキーワードは、「②移動環境づくり」で、『弱み』として感じている方の割合は86%と最も高い結果になりました。具体的には、「渋滞・事故が多い」などの交通問題や「バスの本数が少ない」など公共交通の不便さに対するご意見が多い傾向にありました。

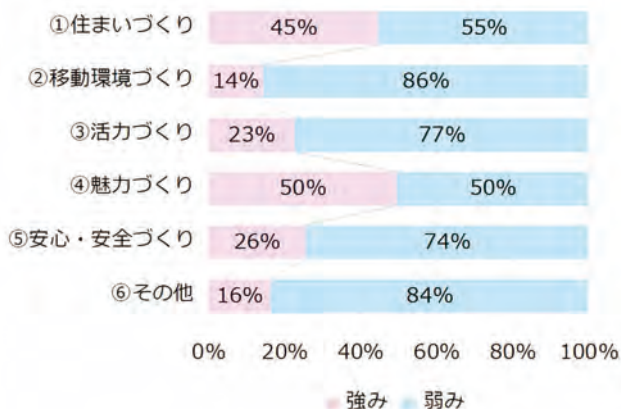
つぎに意見数が多かったのは「④魅力づくり」です。『強み』と『弱み』の割合は半々であり、『強み』としては、「自然が豊富」、「公園が多い」など、充実した緑を魅力と捉えているご意見が多く見受けられました。一方、『弱み』としては、「鉄道駅周辺に魅力がない」、「特徴的な景観資源・観光資源がない」など、地域の魅力に関する意見がありました。

そのほか、「①住まいづくり」に関する意見では、静かな住環境を『強み』として実感している一方で、空き家・空き地の増加を『弱み』として問題視している意見がありました。「⑤安全・安心づくり」は、災害に強いと実感しているご意見がある一方で、災害時の避難体制や空き巣などの犯罪を心配する意見がありました。

キーワード別の意見数の割合



キーワード別でみた『強み・弱み』の割合



『強み・弱み』に関するご意見の一例

	「強み」の意見	「弱み」の意見
① 住まいづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 交通の便がよく、住まいに適している <input checked="" type="checkbox"/> スーパー、飲食店が多く住みやすい <input checked="" type="checkbox"/> 工場が少ないから静か	<input checked="" type="checkbox"/> 空き家、空き地が多い <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の一人暮らしが多く、今後が心配 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもたちの遊ぶ場所が少ない
② 移動環境づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 高速道路が充実している <input checked="" type="checkbox"/> 鉄道駅やインターチェンジがあり移動に便利 <input checked="" type="checkbox"/> 自由通路の整備によって駅が利用しやすくなった <input checked="" type="checkbox"/> 老人会で送迎を行っている（買物、通院など）	<input checked="" type="checkbox"/> 渋滞、事故が多い（国道19号を中心に） <input checked="" type="checkbox"/> 公共交通が不便（本数が少ない、乗り継ぎが悪い） <input checked="" type="checkbox"/> 道路整備が進んでいない（道路が狭い） <input checked="" type="checkbox"/> 坂が多く、車がないと生活できない
③ 活力づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 大都市に隣接し、ポテンシャルが高い <input checked="" type="checkbox"/> 商業施設や医療施設があり、便利で安心 <input checked="" type="checkbox"/> 中部大学があり、学生が多い	<input checked="" type="checkbox"/> 商業施設が少ない、減ってきた <input checked="" type="checkbox"/> 高速道路の付近はもっと活用ができる <input checked="" type="checkbox"/> 農業の担い手不足、農地の未活用
④ 魅力づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 美しい自然が多く、静かで落ち着いた気分になる <input checked="" type="checkbox"/> 公園が多い、公園が広く美しい <input checked="" type="checkbox"/> 子育ての環境がよい（近くに保育園があるなど） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事が活発、町内にまとまりがある	<input checked="" type="checkbox"/> 特徴的な景観資源、観光資源がない <input checked="" type="checkbox"/> 公園が非常に少ない <input checked="" type="checkbox"/> 鉄道駅周辺に魅力がない <input checked="" type="checkbox"/> 地域活動の担い手が不足している
⑤ 安全・安心づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 災害に強い <input checked="" type="checkbox"/> 水の被害が少ない <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民の仲がよく、防犯意識が高い	<input checked="" type="checkbox"/> 災害時に集まる場所がない <input checked="" type="checkbox"/> 道路が狭く、消防車などが入れない <input checked="" type="checkbox"/> 空き巣、盗難が多い

5) 第2回地域懇談会の結果概要

『残すべきもの』として、「静かな住環境」、「子育てがしやすい環境」、「町内の伝統的な文化、活動」など、居住や生活環境に関する意見が多くありました。また、自然や公園などの今ある緑を大切にしたいという意見もありました。

『変えるべきもの』として、「交通渋滞の改善」や「コミュニティバスの充実」など、第1回地域懇談会でも関心が高かった交通環境の改善や増加する空き家の対策に関する意見が多くありました。そのほか、公園や空き家など、今あるものを活用していくことが重要であるという意見もありました。

『地域でできること』としては、伝統行事の継承、地域イベントの計画、防災・防犯意識を高める取り組みなどの意見がありました。また、それらの活動のために多世代交流や若者世代の育成に必要性を感じている声もありました。

グループごとに考えていただいた『まちづくりのキーワード』では、多くのグループで「住みやすい」という言葉が含まれる結果となりました。

『残すべきもの・変えるべきもの』、『地域でできること』に関する意見の一例

『残すべきもの』

- ・騒音がない静かな住環境
- ・子育てがしやすい環境
- ・町内の伝統的な文化、活動
- ・地域のつながり
- ・自然環境を守りたい
- ・公園のある町
- ・農業、農地を守りたい

『変えるべきもの』

- ・交通渋滞の改善
- ・コミュニティバスの充実
- ・電車とバスの接続改善
- ・公園の有効活用
- ・空き家が多くなっている
- ・空き家の活用
- ・町内会のあり方、連携意識

『地域でできること』

- ・地域のよさを伝えていく
- ・手間のかからないイベント作り
- ・空き家の見守り
- ・地域全体で防災について考える
- ・見回り散歩
- ・世代を超えたコミュニケーション
- ・若い世代の育成

グループ別の『まちづくりのキーワード』

中学校区		まちづくりのキーワード
味 美	西部	交通の便が良い+町内会の活性化=住みやすいまち
知 多	柏原	共有と交流
鷹 来	中部	公園多く住みやすい
中 部	東部	住環境の維持
東 部	南部	明るく・住みやすい・やさしいまち -自然・地域のイベント・清潔感・子育てしやすい-
南 城	松原	駅周辺・コミュニティ・防災・インフラ
松 原	坂下	歴史を大切に！ 交通利便性を高くする！ 商店街を活性化する！
坂 下	高森台	インフラ整備（交通アクセス）・中部大との共存
高 森 台	高石尾台	住みやすい環境の維持
高 石 尾 台	藤山台	企業誘致と自然のバランス
藤 山 台	岩成台	全世代交流・住みよい街
岩 成 台	高蔵寺	緑を大切に！ 地域コミュニティの強いまちづくり
高 蔵 寺		大切な自然を残しながら高蔵寺を変革させていこう！！
		住みやすいまち